

**報 特 攻**

平成12年8月

### 沖縄慰霊の日に懐う

軍司令官が自決し沖縄本島における地上軍の組織的戦闘が終焉した6月23日を、沖縄慰霊の日とし、現地の摩文仁慰霊公園では様々な慰霊行事が行われている。

沖縄作戦では現地の陸海軍戦死者は約6万5千のほかに約10万の一般住民が戦火に斃れている。その人達の氏名を刻んだ銘板が、摩文仁の慰霊公園内に建っている。

敵が沖縄本島に上陸したのは20年4月1日である。陸海軍航空部隊は、特攻を主軸とする航空攻撃により、敵を洋上に撃滅しようとした。3月中旬から終戦まで沖縄方面で戦没した航空の特攻隊員は、海軍一、九八一名(一〇〇五機)、陸軍一、〇二二名(八八六機)となっている。これら特攻戦没者の殆んどが二十才を僅かに越した青年

であり、中には十才代の人も少なくない。戦死者名簿で生年が昭和の者を数えてみると、陸海軍共5%ほどおり、中には昭和3年生まれとなっている者もある。陸軍の少飛、海軍の予科練出身者で、昭和3年生まれならば満17才になるかならない齡である。最近続発している非行少年のことを思うと慨嘆を通り越して言うべき言葉を失う。水上特攻、水中特攻の戦死者についても同様である。若き殉国者といえは、沖縄の地上戦で散った男女の学徒達のことを忘れてはならぬ。我が協会の相談役金城和彦氏が最近出された「嗚呼沖縄戦の学徒隊」という著書に據れば、

学校名	部隊名	人数	戦死者	戦没職員
沖縄師範男子部	鉄血勳皇隊	300	288	19
県立第一中学校	鉄血勳皇隊・通信隊	286	266	20
県立第二中学校	鉄血勳皇隊・通信隊	181	178	7
県立第三中学校	鉄血勳皇隊・通信隊	62	54	3
県立工業学校	鉄血勳皇隊・通信隊	130	109	

### 第44号

〒105-0001 東京都港区  
虎ノ門3-6-8 第6森ビル  
財団法人 特攻隊戦没者  
慰霊平和祈念協会  
電話 03(3432)1090  
FAX 03(3432)5567

編集人 田中賢一  
発行人 木村元正

### 目次

沖縄慰霊の日に懐う……………1  
 生残り特攻隊員の心境④  
 ①と震洋……………3  
 「遺書遺詠に偲ぶ特攻隊員の心境」  
 読後感……………13  
 靖国神社みたま祭感懐……………14  
 忘れがたい人達 ⑥ 回天⑥……………15

書評「回天」その青春群像……………16  
 ①慰霊祭……………17  
 鹿屋航空基地慰霊祭……………18  
 騎兵出身の特攻隊員③……………19  
 知覧特攻基地慰霊祭……………20  
 ネグロス島慰霊訪問記……………22  
 語り伝えておき度い戦史の一場面……………25  
 靖国神社みたま祭特攻のほんぼり……………27

学校名	部隊名	人数	戦死者	戦没職員
県立農林学校	鉄血勳皇隊	93	71	
県立水産学校	鉄血勳皇隊・通信隊	45	29	8
那覇市立商業学校	鉄血勳皇隊・通信隊	108	95	
私立開南中学校	鉄血勳皇隊・通信隊	300	259	4
師範学校女子部・ 第一高等女学校	ひめゆり学徒隊	148	127	11
県立第一高等女学校	白梅学徒隊	46	35	
県立第三高等女学校	名護蘭部隊	不詳		
県立首里高等女学校	瑞泉学徒隊	60	52	
私立積徳高等女学校	積徳学徒隊	41	32	
私立昭和高等女学校	梯梧学徒隊	68	55	5

注 鉄血勳皇隊は中学三年生以上を充てて直接戦闘に参加し、二年生は通信隊や司令部等の通信業務に従事した。身分は軍人である。女生徒は看護婦とし身分は軍属である。

この人達の精神を偲ぶため、遺書の一部を転載する。

御両親様 どうか健在であって下さい。私も今度鉄血勳皇隊に入り、郷土沖縄に上陸した敵と戦います。しっかりとやります。御安心下さい。万一私が



20年6月23日4時30分、自決の為麻文仁の洞窟を出る牛島軍司令官と長参謀長。参謀部付西野少佐(故人)画

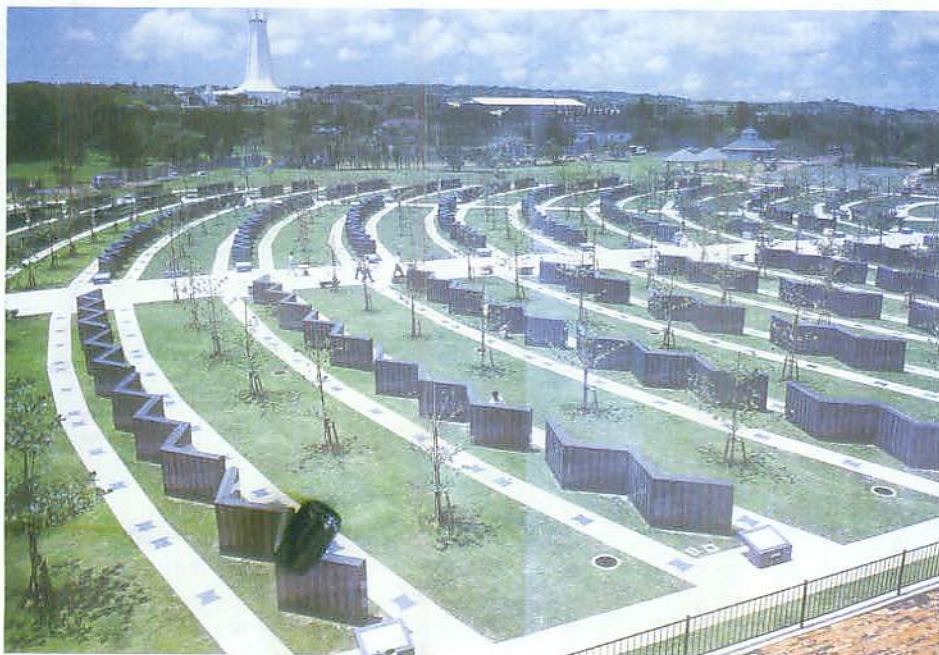
戦死した時は、よくやってくれたと思われて、決して嘆く様なことはしないで下さい。最後に御両親様の御健康と御発展をお祈り致します。さようなら  
身はたとひこの沖縄に果つるとも  
七度生まれて 敵亡さん

四年 小渡壮一

註 第5砲兵司令部所属 真壁にて  
戦死 十七才

お母様 いよいよ私達女性も、学徒看護隊として出動できます事を心から喜んでおります。お母さんも喜んで下さい。私は皇国は不滅であるとの信念に燃えて生き延びてきました。軍に協力して働けるのはいつの日かと待っていました。いよいよそれが私達に報いられたのです。何と私達は幸福でしょう。大君に帰一し奉るにあたり私ほもつともいい機会を与えられました。しっかりやる心算で居ります。(中略)

散るべき時には立派な桜花となって散る積りです。その時は「一家の子は偉かった」と誉めて下さいね。(以下略)  
この遺書は第二高女四年生大嶺美枝が、第24師団野戦病院従軍看護婦となつて出陣する前に認めたもので、同人は6月中旬国吉で戦死した。



麻文仁慰霊公園には沖縄戦全戦没者25万柱の銘板が建っている。



県立第二高等女学校(白梅学徒隊)の生徒たちが、恩師と共に学校の庭で撮影した最期の写真である。



万世を出撃した少年兵

〔対談〕

生き残り特攻隊員の心境④

震洋と①

11年12月19日  
借行社に於て

て下さい。

○隊員の選定

について

木村 それでは先づ隊員選定に就いてから始めて下さい。

若田 特攻隊員の選定に就いて、志願か命令か、一応志願と云われていますが、建前上のことであつたのかどうか、その辺の処に関してお尋ねします。

皆本 陸軍士官学校を卒業するに当って、如何なることも命令によって行われるという原則を教えられました。①特別研究班発足に当り、我々同期(57期)3名が選ばれて広島島の船舶司令部付となりました。我々の場合は命令です。上級指揮官も志願ではなく任命されて来たと認識しています。群長クラスも適任と思われる者を選定して任命し

質問者

- 一ノ瀬雄司 23才 会社員
- 尾内 光俊 22才 大学生
- 林 雄毅 22才 大学生
- 岩田 雅夫 30才 会社員
- 河嶋 洋 23才 大学生
- 大館 広史 40才 自衛官

応答者

- 〔震洋〕
- 豊廣 稔 海兵72期
- 浦本 生 海兵72期
- 野崎 慶三 海軍予備学生3期
- 〔レ〕
- 皆本 義博 陸士57期
- 久保 二郎 陸士57期

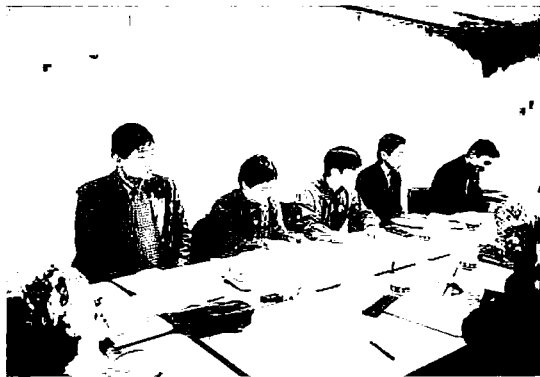
- 全般企画 田中 賢一
- 司 会 木村 元正
- 記事整理 菅原 道熙

田中 生き残り特攻隊員との対話は、

今回は航空(陸)、空挺(義烈)、回天に続いて四回目になります。今回は人数が多いので発言時には必ず名前を言っ

た筈です。

久保 私は歩兵で、山形の歩兵第91聯隊で昭和19年9月に演習中突然聯隊長に呼ばれ、船舶司令部付に発令され



た。船舶工兵ではないかと思われるが至急赴任せよと言われ、一切不明の俣急拠赴任したというのが実情です。

浦本 私は戦艦乗組で、昭和19年9月瀬戸内海に掃投した時に突然横須賀の水雷学校付に発令され、魚雷の勉強をするのかと思つて赴任して、特攻要員と初めて知らされて吃驚したというのが本当の処です。

豊廣 私は海軍兵学校(72期)卒業時の希望通りになって、第二水雷戦隊の駆逐艦に乗っていました。レイテ海戦の直前で、艦隊はリンガエン泊地で猛訓練をしていました。訓練中に電報が来たのは、昭和19年9月15日に中尉に進級した直後の20日頃でした。佐世保鎮守府付を命ぜられました。艦長はこういう時機だから何か重要任務らしいと言っただけで、実情は判っていませんでした。佐鎮に着任しますと、近くの川棚魚雷艇訓練所に行けと言われました。訓練所に行くともう夕方近くでしたが、所長の原為一大佐に同時発令の三人が柔道場に呼ばれました。大佐は人も知る豪傑肌の人で、われわれの新任務が、新しく編成される震洋指揮官であることを知らされました。きき馴れない震洋という名前に怪訝な顔をしていると、なあーに体当りだ!!とこともなげに申し渡されました。私は心

の隅で一瞬嫌だなど思いましたが、一晩三人で語り合つて翌日返答せよ、と一升壺を与えられました。所長は否の場合に別途配転先を考えると言われましたが、三人共諾と返答し、翌朝早速ポンド（船だまり）に震洋艇を見に行つて納得しました。私の場合は、最終的には自分で選択したのだから志願です。

野崎 私は海軍予備学生3期で第一期魚雷艇学生です。昭和19年5月末に少尉に任官しました。その前に震洋のことを聞かされて、乗務を希望するかどうか希望を書いて出す様に言われました。私は血書で熱望と書きました。

同期18人中希望と書いた者は5人で、他は全部熱望であつたと聞きました。我々予備学生に限つて全員志願です。

豊廣 今迄のは士官の例ですが、予科練あるいは一般兵科出身者の場合はどうだったのか、浦本君がよく知つてゐると思ひます。

浦本 震洋は一隊50人編成で陸軍①の半分の人員でした。予科練からの転向者は、旧制中学四修以上の甲飛、これより一年位若いクラスの乙飛、高小卒からも入れた特乙飛の3種別から成り、他に一般兵科からの転向者もいました。震洋13隊中甲飛49隊、乙飛34隊、特乙飛14隊で、残る16隊は一般兵科（志願）によつて編成されてゐました。

甲飛は卒業時に即日震洋配属となりました。900人全員が格納庫に集められ、久邇宮、聯合艦隊参謀長、上浦航空隊司令3人の立合の下、飛行機が不足してそれを補足する新兵器が開発された、震洋に関しての具体的説明は無いに状況説明があり、長男は除く、又どうしても飛行機という者は文書で申出よということ200人が選定されました。殆どが熱望して選定には苦労したと聞いています。私がいた水雷学校には甲飛13期が50人宛4隊分計200人配属されました。

久保 私は初めは海上挺進第18戦隊でしたが、海没して潰滅したので20戦隊に転属されました。戦後生残り隊員の戦友会でアンケートを取りましたが、回答17名中志願は下士官1名のみで他は命令でした。下士官は部隊で、希望者は申出よということ志願したと言つてゐました。

皆本 私は昭和19年7月1日に少尉任官後直ぐ船舶司令部付となりました。我々57期3人の他に少佐（44期）以下15名も呼ばれていて、②の制度作りの初めから参画しました。鈴木宗作船舶司令官（レイテ洋上で戦死）は、陸軍として従来やっていた大発による海上輸送と上陸作戦のみでは納まらなくなつて、新領域の作戦を手掛けざるを得な

くなつたと訓示があり、次いで参謀から③の説明を受けました。その後白紙を渡されて、イ、如何なる訓練にも耐えられるか、ロ、如何なる任務も達成する自信があるか、ハ、最後迄絶対的企図を秘匿出来るか、ニ、本人が戦死した場合に家族は困らないのか、の4点に関し、イエスカノウかの回答を求められ、その結果全員が合格しました。我が国危急存亡の秋貴官達の健闘を祈る、と言ふことで終りました。

それより早く昭和19年4月に特別幹部候補生（特幹）の制度が発足し、船舶特幹1期生は、小豆島で海上挺進戦隊要員としての訓練を受けてゐました。30ヶ戦隊で各戦隊、戦隊長以下104名で④は100隻、19戦隊迄は特幹、20戦隊以降は現役下士官で充ちました。軍籍に身を置く者は、如何なる任務にも服するということが不文律でしたので、全員任命であつたと思ひます。

木村 以上で選定の実態に關しては大体意を尽くしたと思ひますが、どんな選定規程によつて任命されたのかに就いて補足して下さい。

皆本 陸軍の海上挺進戦隊長は陸士出身の現役少佐（51期）から大尉（54期）迄で、少尉候補者出身も1名いました。中隊長は一戦隊3人で、当初は

57期のみでしたが、遅れて55・56期も任命されました。他に幹部候補生8・9期生の中隊長も3人いました。一中隊当り3人の群長には幹候11期が任命されました。戦死損耗率は、幹候10期71%、11期85%、特幹1期生69%と極めて高率でした。

久保 私と同時に船舶司令部付となつた39名の同期生又は先輩中25名が戦死されました。

豊廣 私は先づ人事局で選定されても艦長経由で発令されました。被選定者は何れも水上艦艇乗りで、潜水艦・飛行機乗務者は一人もいませんでした。基本的には大雑把な人選であつたと思ひます。

野崎 予備学生3期の選定基準は魚雷艇乗りということで、回天、伏龍も特攻兵器ですが、これ等も大半は魚雷艇乗りから選ばれました。

浦本 震洋には我々の72期が一番多く配属されました。隊長は本来は6・7年先輩の少佐クラスの人が任命されるべき配置であるが、該少クラスの方々は殆んど戦死されて人数が足りないの

で、止むなく若輩の新任中尉を任命したので、自惚れるなど冗談半分に言われました。震洋を初めて見てこんな小船で突撃すると知つて、突然の事としてショックで情無いことですが、二・三日飯が食べませんでした。私の兵学校

の期で震洋隊長に発令された者は、事前に何らの説明等は勿論なく、一般の配置変更と同様に、電報で震洋隊長を発令されたのが殆んどです。一部の人は、例外的に赴任直前に事情説明を受けたとも聞いてますが、同期生の殆んどは指名発令ということです。比島で先輩が突然の出撃命令を受けて、矢張り飯が食えなくなったという話をされました。回天等では修養を積んで平常心で、悠容迫らざる態度で出撃された方も居られる様ですが、凡俗の人間にとつては大変であったということを上げます。

### ○受けた教育・訓練の内容

木村 次に訓練の内容に就いての質問に移りたいと思います。

林 教室ではどんな授業を受けられましたか。

皆本 船舶兵は、我々の陸士卒業より半年早い昭和18年10月に工兵から独立しました。同期の船舶兵の $\frac{1}{2}$ は戦車兵、 $\frac{1}{2}$ は工兵から、合わせて65名が転科して宇品の船舶練習部に集まりました。戦車兵はエンジンに慣れている、工兵は海や川には慣れているからという事で、座学と実技訓練は別で、我々57期は見習士官であった約半年の間専門教育を受けました。陸軍の最も得意とする航海は、海軍中佐から航法・

天測の一部を習い、海上運航の基礎訓練は大発で瀬戸内海でやりました。その後教える立場になって、豊島の海岸に天幕を張り、各戦隊毎に3〜4日程度の基礎訓練を第十戦隊位迄実施しました。

久保 同期の皆本君とは異なり、私は9月中旬迄歩兵としての訓練を受けて、いきなり海上挺進戦隊の中隊長を拜命しました。但し隊員の特幹は基礎教育を、小隊長の幹候出身者は小隊長教育を、或る程度受けていました。中隊長のみが全く素人でありました。訓練らしい訓練も受けずに10月15日に出陣式を挙げて、比島に向けて門司を出航しました。基地待機中に一回でしたか、10隻位を率いて幸浦から敵島神社の大鳥居迄の夜間往復航行訓練をした位です。出航して直ぐ敵潜水艦にやられ、一晩泳いで海防艦に救助されて上海に上陸し、大陸経由もう一度内地に戻り、20年の1月又船で台湾に渡り、嘉義の近くに駐屯しました。一ヶ月中隊

に $\text{O}$ が10から13隻程度に戦力は低下していました。昼間は空襲があるので訓練は夜間に行ないました。遠浅海岸で坐礁して、夜が明けて大混乱したことがあります。必勝の信念は反覆猛訓練で生まれてくるものですが、訓練らしい訓練は内地での一回を含めて数回で、

到底そういう段階には至らず台湾でアレコレ悩みました。

浦本 予科練からの転向者は既に一年近くパイロットになる基礎教育を受けていましたが、海のことには判らずボートに乗ったことも無い者もいました。

先づ海に馴れる初歩訓練を受けて震洋の乗務訓練に移ります。自動車エンジンを装備していましたが、本来の船のエンジンとは構造が一部異なっていました。更にスクリューはエンジンに直結していて(ノーギア)後進は出来ません。始動に失敗すると海水濡れで動かなくなる等で大変でした。又接岸時は函足を出して着岸するなど、海上訓練ではト・ト・トの発光信号が来ると突撃という程度の通信訓練、懐中電灯での相互の場所確認等、夜の海に馴れる程度の初歩的なことのみで、隊を組んで行動する訓練は出来ませんでした。

座学は艦型から敵艦種を判定すること位しか出来ませんでした。

野崎 我々は魚雷艇の専門教育を受けていたので、震洋も魚雷艇を小さくしたようなものであると理解して、予科練転向者の教育には苦労しませんでした。魚雷艇学生は宮本武蔵流で、必ず勝つ為には手段を選ばずという信条を叩き込まれていたもので、震洋で敵に勝つにはどうしたら良いのかを色々

考えながら訓練しました。

皆本 陸軍は $\text{O}$ 採用前の試作艇で宇品近辺で練習しました。変速器はありますが海ではトップより三速(直結)の方が速度が出ることを知りました。静かな瀬戸内海と異なり荒れる外海では、大波に揉まれて船がジャンプすると空気が入って冷却水が上らなくなる。大うねりが来て底に入るとトントウ信号は僚艇に伝わりません。音声連絡はエンジン音に消されて不可能等々、予期せぬ苦勞を味わいました。而も攻撃は夜間に行う。目も見えず、耳も聞こえないという状況下、万難を排して目的達成に邁進する決意に支えられて頑張りました。

豊廣 震洋は元来は泊地に侵入した敵艦を攻撃する目的で設計されていたので、外洋に出ると大変でした。私は沖繩東海岸の企武湾に布陣していましたが、出撃すると太平洋に出ました。大波が来ると速力が出ない、波をかぶるとエンジンは停まる。部下搭乗員は予科練出身ですので、飛行機はともかくとして海上での航法・航海術は十分には習っていない。羅針儀ぐらひは読めたでしょうが、夜間は群から外れると、どう仕様もない等のが起りました。座学では、艦型からの艦種識別等、実際に即したことを勉強したと思

いますが、夜間の艦種識別等はペテラ  
ンでも難しいことで、初心者には判ら  
なかったと思います。

皆本 ④の中隊長艇には羅針儀を取  
付けましたが安物で、高速になると針  
が振れて使えませんでした。エンジン  
のガスケットはアスベスト製で、長時  
間運転すると破れて海水がオイルに混  
入し、時にエンジン破裂を起こしまし  
た。自動車エンジンを舟艇用に使った  
のは根本的な誤りでした。

尾内 当初は脱出装置が付いていた  
けれど、脱出訓練はしなかったとも聞  
いて居ります。体当たり寸前に脱出可能  
であれば搭乗員は反覆出撃が出来たと  
思われますが、実情に就いてお尋ね致  
します。

浦本 脱出訓練は一回も行わず、装  
置に就いても説明したことはありません。  
スクリーナー一本の場合だと、舵を  
固定しても艇首は左に振れます。設計  
上九死に一生を得る配慮が為されてい  
ないと兵器として認められないので、  
万一の時に脱出可能な様に舵固定装置  
はありませんが、固定しても前述の通  
り直進出来ません。脱出して自分の艇  
にがぶられて仕舞う危険があり、又体  
当たり寸前の脱出では近距離爆発に伴う  
爆圧で圧死します。脱出装置はあつて  
も実用性は零です。

皆本 陸軍では当初そのことは研究  
課題でしたが、第一線に立つ我々は突  
入以外に手はない、敵前で回転し、船  
尾の爆雷を投下して乗員が助かること  
は不可能であるという結論になり、大  
本営参謀も同意して帰りましたが、後

でその様な方式ではお上がお認めにな  
らないであろうから、生還を期すると  
いうことになりました。⑤の250kg爆雷  
は水圧信管で、投下後四秒で爆発する  
様になっていました。この場合、僅か  
でも助かる見込みはあることになりま  
す。私としては建前はそれでも良いが、  
実行は不可能と考えました。実際に反  
転再出撃した隊員は居ないと思います。

野崎 震洋隊員は脱出不可能と思っ  
ていました。至近の所で仮に脱出した  
としても爆圧でやられます。安全を慮  
らなければ早目に舵を固定すれば命中  
しません。従って脱出訓練はしたこと  
はありません。

豊廣 その点陸軍の方が遙かに考え  
方が進んでいたと思います。海軍は必  
ず体当たりして死ぬということでしたが、  
現実論として、回避の可能性がたとえ  
僅かでも残されていることは、搭乗員  
の気持にゆとりが出来て、搭乗員を逆  
に精強にしたのではないかと思います。

皆本 スクリューが一本だと上下の  
水圧差のため直進出来ません。回転が  
逆の二本のスクリューを装着すると直  
進するので、最後の頃は陸軍の④や高  
速艇はスクリーナーを二本にしたよう  
です。

皆本 陸軍は初め前部搭載も検討し  
ましたが、軸が重くなるということ  
で採用しませんでした。

豊廣 震洋は初めから前部搭載でバ  
ランスをとる為に、後部に砂袋を積み  
と言われました。しかし、基地に配備  
されてからは、艇の格納壕掘りに忙殺  
されて、実際には砂袋の準備はあまり  
実行できませんでした。そのまま出撃  
したので、艇が前のめりになり、波を  
かぶりエンストを起しやすくなりました  
。実験的に砂袋を積んだことがあり  
ますが、その時は吃水線が沈み速力が  
出ません。いずれにしても、爆薬を積  
載しない備波静かな訓練所の湾内を走  
っていた時と、実戦場とは大分様子が違  
い苦労しました。

皆本 陸軍では将校・下士官は、26  
年(明治)式回転式拳銃(実弾六発)

浦本 海軍は一人乗りの一型の場  
12隻づつの4ヶ艇隊で一箇部隊を編成  
しました。艇隊長の4人のみが拳銃を  
所持しました。自決用です。佐世保で  
ロケット二基装備したのに乗りました  
が、うまく作動せず怖い思いをしまし  
た。隣の艇隊長はロケットがうまく発  
射せず、おかしいとあちこちいじくっ  
ている内に飛び出して、顔面を大火傷  
したことがあります。12隻で波に揉  
まれて上下している時に発射して下手  
すると同士射ちをし兼ねません。台湾  
で東支那海に出て、大波に揉まれて海  
に坂道があることを知りました。坂に  
向うと艇は殆んど進まず逆に山を越す  
と40節位出ます。そんな状態でロケッ  
ト発射は危険の上ありません。

皆本 陸軍では海軍はロケットを持っ  
ていると聞いて、何故陸軍は支給しな  
いのかと羨ましく思いました。

浦本 我々は単なる気休めとしか考えていませんでした。

大館 ロケットは推進力には関係ないのでですか。

豊廣 それはありません。敵艦に発見されて、機銃掃射あるいは小口径砲の砲撃を受けたときは、こっぴどがロケットを発射して応戦すれば、相手を瞬時ひるませる位の効果はあったと思います。体当たりが成功すれば、震洋の場合には吃水線を狙うから、効果は大きかったと思います。私の部下が敵駆逐艦に突入しこれを撃沈した時、私は割合近距離で戦果確認していましたが、敵は震洋特攻に気付かず空中特攻と思ひ込み、夜空にさかんに探照灯を交差させ対空砲火を上げました。

野崎 昭和20年3月には八丈島にいました。その時震洋は、一人乗りから二人乗りの五型になりました。ロケット発射試験でうまく発射出来れば、200m位離れた高さ15m位の大岩を粉碎しました。ロケット威力は素晴らしいものでした。

### ○特攻隊員に選ばれた時

及びその後の心境  
河嶋 特攻隊員になられて皆さんはどの段階で心の整理ができましたか。

浦本 至急赴任ということで横須賀に直行して水雷学校に行ったら、日曜

日なので明日来いと言われて腹を立てたら、至急赴任せよの電報は熱海辺りで途中下車して遊ぶ人もいるので出たということでした。田舎出の私は、そんな機転を効かず才覚もなく憤慨したことを思い出します。着任時特攻というところで、未だ特攻の実体を知らず吃驚して自分の部隊に行ったら、既に予科練出身の搭乗員が半月位前に到着していて愉快にやっていました。そんな中に飛込んで二三日でその雰囲気

に馴れました。独りで個室に居る様な状態であつたら、平常心に戻るのにもっと時間が掛かったと思います。気持ちの整理が早くついたのは団体行動の一員となつたお陰で、自力のみでそうなたのではありません。

林 靖国神社で特攻学驚の遺書に、戦争の勝利は難しいと見通して居られたのを読みました。皆さんは当時戦局をどの様に見て居られましたか。

久保 任官直後の少尉が司令部付とは普通考えられないことで、怪訝な思いで赴任して司令部から順次下部実施部隊に移るにつれて、特殊な任務の部隊であることが判って来ました。通称

青蛙と言われていた①を見て心細く思いました。自ら志して陸士に入り軍人になつたのだから、しっかりしなければならぬという社会的責任感を持つ

ていました。従ってみっともない事は出来ない。今更逃げも隠れもしない、という気持ちで我が心を鞭打ちました。

死生観が確立し明微な皇国史観があるというそんな立派なことではなく、唯陸士の教育を受けたのだ、それは歩兵であれ、船舶兵であれ、特攻であれ、変えることは無い筈だと自らの心に言い聞かせていました。

皆本 詳しい戦況は判りませんでしたが、サイパンの失陥によって我が国は危急に瀕していることは十分判りました。陸軍の輸送船団は何故豊後水道を通らないのかと質問したら、既に敵潜水艦が二重三重に待ち構えているからだと聞かされ、そんなに深刻な状態に置かれていることを知りました。従って船団は門司から玄海灘に出て、平戸水道を通過して牛深に入り、態勢を整えて錦江湾に集結する航路を取っていました。陸軍は比島へは20節も出る高速

大型船で優速船団を構成しましたが、沖繩へは船足の遅い劣速船団を組んでいました。我々の乗船は大泊から廻航された石炭運搬船で、最高速度55節の鈍足でした。護衛は水雷艇一隻と、武装した捕鯨キャッチャーボード一隻だけ心細く思いましたが、翌朝100t位の機帆船が三隻、日の丸を掲げ護衛無

して北に向って航走する姿を見て感奮

し、部下を甲板に集めて志気を鼓舞しました。

野崎 昭和19年5月に少尉に任官、館山の準部隊と呼ばれていた魚雷艇隊の甲板士官になりました。或る日部下を引率して富岡八幡宮参拝に行く途中、追い掛けて来た自動車から、直ちに横須賀鎮守府に出頭の電報が来たこと知らされ、その車で戻りました。震洋に關

しては二ヶ月前に志願していたことではありませんが、改めて鎮守府で特攻と聞いた時には、体の震えが中々止まりませんでした。10月11日水雷学校に侍従武官が御差遣になり、震洋特攻部隊に聖旨の伝達がありました。その時には涙が滂沱として流れました。20年4月八丈島で敵大船団出現の報を受け、2

時間後出撃命令で別れの盃を交わして乗船した時のことを、私自身は記憶して居りませんが、今から10年位前に戦友会があつて当時を回顧し、18才の予科練出身者は全員顔面蒼白、20才の予科練出身者は全員顔面蒼白、悲愴な顔付で涙を流していたということが判明しました。以上が当時の特攻隊員の心情です。

久保 陸士卒業間際に精神講話があつて、間もなく第一線に出ることになるが、初めて敵弾が飛んで来ると、その音を聞いて青くなり体が震えるのが普通である。その時に恥ずかしいと思っ

な。無理して豪胆そうに振舞うな。素直に有るが俣に振舞え。只任務達成に雑念を去り毗を決して進ませよ。それが部下の心を掴むことになるの間かされていた事が深く心に残っていたので、④で出撃する時はその心境で行こうと思いました。

豊廣 私は沖繩本島の東海岸に配備されていましたが、⑤は沖繩には何隻位ありましたか。

皆本 海上挺進隊は6ヶ戦隊と1/3が配置されてました。

豊廣 海軍は出遅れて沖繩には震洋は15戦隊、而も⑥が一戦隊100隻配備であったのが、震洋は半分の50隻で、戦力は陸軍に比して微々たるものでした。20年3月上旬に首里の県立女子師範と第一高女併設の大講堂で、陸軍の海上挺進戦隊全部の兵棋演習が行われた時に、海軍の震洋、魚雷艇、特殊潜航艇の指揮官四人がオブザーバーとして出席しました。長参謀長が⑦の第一戦隊から順に色々質問されましたが、最後に牛島軍司令官が、次のように言われました。海軍の震洋隊指揮官にたずねる。白昼、金武湾に米軍が上陸してきたら指揮官はどうするか。と大音声で質問されました。魚雷艇司令の白石信治大尉が、豊広答えよと指名されたので、突嗟でしたが私は迷うことなく

立ち上って、不動の姿勢をとり敵に対し震洋を擬装し、基地に煙幕を張りまく。そして敵の艦砲射撃の間隙を見て突込みます。と明快にお答えしました。軍司令官は、そうかとニコリ笑って大きく頷かれました。散会后海軍の大田司令官からも、適切な回答であったとお褒めの言葉を頂きました。

軍司令官は、夜間攻撃しか出来ない震洋隊に対して、本当はその士気をためされたかったのだとあとで思いました。この陸海軍合同の演習は3月の7日から8日で、23日にはもう米軍が来攻しました。

我々震洋隊が健在の間は、敵艦は金武湾に入って来ませんでした。米地上軍が震洋基地を占領して、はじめて敵艦が入泊してきました。

皆本 当時既に情勢が急迫していたので、慶良間諸島に配備されていた戦隊は、万一の場合に備えて戦隊長は残留する様に命ぜられ、代りに中隊長である私が演習に参加しました。

豊廣 いざ敵を目前にすると、誰でもそうであるとは申しませんが、生身の人間恐怖心がチラチラと顔を覗かせます。しかし、そういう弱気を意志の力で押さえ込んで、特攻隊員は突込んでいったのだと思います。

他の特攻の人も同じではなかったか

と思います。特攻隊遺詠集に収載されている神風特攻の福山正通中尉の「一国のため盡す命は惜しまねど唯気にかかるとのゆくすえ」は、私の気持ちそのままです。彼とは海兵同期です。てにおはが一、二ヶ所違うだけの相違はありますが、全く同じ内容の遺詠が福山中尉のものを含めて三首もあったのは驚きました。当時の特攻隊員は、皆同じ心境に在ったのではないかと思います。

大館 私もその遺詠に関心を引かれました。家族宛には「君のため」になっています。公と私を区別されて、家族に対しては「君」を使われたのか、或いは国も家族も含めて「君」と詠まれたのかな、と考えました。

最近山口大の某教授が、日清・日露以来一貫して侵略戦争であった、という内容の本を出版したことの反論を、東京情報という冊子に出しましたが、福山中尉の遺詠を引用する時にどちらを選ぶべきか迷って、結局「君」の方を取上げた経緯がありました。

浦本 昭和20年1月震洋隊長として比島へ向けて佐世保を出港した時には、特攻死を覚悟しましたが、既に比島戦が始まり比島に上陸できず、止むを得ず台湾に上り、六月になって沖繩戦終結を聞いた時に、或いは生きて帰れる

のかなという思いが浮かびました。自ら望み選んだ途を歩んだのではなく、何度かの際どい場面でも常に針が生の方へ振られて生き残りました。初めに横須賀水雷学校に赴任する時、途中熱海辺りて息抜きをする様なことをせず直行したことで、予定された船(海没した)に乗らないで助かりました。そこで沖繩に行く予定と聞かされて、鹿児島県人であり目と鼻の先の沖繩は気が進まないと思いを述べ、それならもっと南

のコレヒドール島派遣ということになりました。佐世保を出航して間もなく輸送船が衝突しましたが修理の為門司に戻り、今度は陸軍と同じ劣速船団で朝鮮半島沿いに進み、上海、厦門と敵潜水艦を避けて進む内に、コレヒドール島に上陸不可能な戦況となり台湾に上陸しました。現地には浦本部隊敷地という杭が畑の中に立っているだけで、

二月頃には資材の補給があるということでした。沖繩隊が始った頃、搭乗員は沖繩に移動させるということになりましたが、結局輸送手段が無く生き残りませんでした。震洋隊員の生死の運命は、何処に配置されたかで岐れ道になりました。戦死された方々には申し訳ないという気持は今でも持ち続けています。久保 山形から江田島の幸浦に着いて、海上挺進第18戦隊第3中隊長に任



命され、10月15日ルソン島ボタンガスに展開命令が出ました。そのときの出陣式の写真が之です。私は21才でした。皆本 陸士校長として私達57期を送り出された牛島満中将が、沖繩の第32軍司令官に着任されました。先に話の

出た兵棋演習の席で、訓示が終つて閣下は私が校長をしていた時の生徒は手を取上げてと言われ、起立した4人の一人々々の顔をじつと見詰めて会釈され、有難いことだと申されました。その

ときの感激は忘れられません。演習が終つて嘉手納飛行場に行つて、船舶工兵聯隊から航空燃料を貰い、大発に積んで渡嘉敷島に戻りました。見習士官の艇長に一泊を薦めましたが、忙しい

と直ぐ反転し、島を出た所でB-24の餌食になりました。3月23日昼食中に敵艦載機の空襲を受け、翌日軍司令部に打電、甲号戦備(戦闘準備)で対処すべしとの命令を受けましたが、之が

最後で遂に作戦開始命令は来ませんでした。25日には艦砲射撃が始まり、持てる武器は機銃二挺のみ、敵の為すが

尽に委せざるを得ない状況でした。久保 18戦隊1中隊は東支那海で、2中隊はバシー海峡で海没、全員戦死

しました。3中隊は東支那海でやられ、一部は救助され戦隊長以下12、13名は、丸腰で比島に上陸しました。私以下15

名は、海防艦に救助されて上海に運ばれ、大陸経由広島に戻り、同じく海没して戻っていた20戦隊に編入され台湾に行くことになりました。中隊8人中(当初10人後で4人補充)生き残つたのは15名位です。

田中 先程あの様な戦局で特攻隊員の心の依り所はどこにあったか、という質問があったのでそれにお答えします。

私は昭和20年になって、グライダーに戦車を載せて進攻する挺進戦隊長として、終戦一ヶ月位前に沖繩への特攻隊差出しを命ぜられました。グライダーに機関砲装備のジープを積んで敵飛行場に突入するのです。12機分の搭乗要員を選定して、福生から新田原への前進が八月十五日になっていましたので

作戦未遂になりました。私自身二回目には参加する積りでいました。既に戦局挽回は覚束ないと思つていましたが、美しく死のうという美意識を抱いていました。それと後に続く者を信ずるという気持ちです。義烈空挺隊の三浦曹

長は、奥山に名も無き花と咲きたれど散りてその名を清く留めん」と詠んでいます。私は落下傘部隊に4年関係し、多くの特攻死者の遺書を読んで、結論的にそういうことが言えると思

います。

皆本 勇敢に戦つた将兵の心の支えとなつたのは、銃後で頑張っている人々、特に御婦人の方々であつたと思ひます。福島県のある未亡人が、戦後御主人の戦死された沖繩の地を訪ね、この果に君のある如く思われて春の渚に暫し

た、ずむ」と海岸で詠んで居られます。この様な気持ちだが、これからの日本にとって大事なことであると思ひます。

久保 先程海上挺進第18戦隊第1中隊は全員海没戦死したと申し上げましたが、戦後中隊主力の特幹1期生が突前に書いた遺書が発見されました。19年4月に入隊した17、18才の方々です。

〇〇、震洋の装備と性能 一之瀬 軽量で速度を重視すべき、震洋に武装することは、機動性が低下してマイナス要因となつたではありませんか。

野崎 震洋で13耗機銃、12種推進砲等を積んだのは、50隻中編隊長の乗艇5隻だけです。作戦が進み震洋がより敵に狙われる様になつて、武装の必要

性が考えられる様になりました。若干の効果は上つたと思ひます。20年1月末の頃からのことです。

一之瀬 敵が武装艇に気を取られてる隙に、身軽な非武装艇が突入出来るという効果が挙げたということでは

か。 豊廣 我々の所の50隻は初期の震洋一型で、20年1月中旬に輸送船で佐世保を出撃しましたが、13耗機銃は一型です。どの艇も装備していませんでした。但し12種噴進砲(ロケット弾、通称ロサ弾)を座席の左右に二基搭載してました。発射装置は原始的なもので、単なる木製のすべり台のようなものでした。すべり台についているロケット発火装置の撃針が錆びついて、いざという時着火しないシロモノでした。それでも頼りになる奴で、私は敵前で発射したことがあります。今考えると噴進砲の自重は、砂袋の替りに艇体の前のめりを防止する効用が大いに

あつたと思ひます。

皆本 敵船から銃撃されたら機関銃で反撃して突入することは、何もしないよりは良いと考えられました。ピストルと軍刀ではどうにもならず、目的達成の手段として機関銃位は装備する

ということでした。

一之瀬 萬難を排して敵に肉薄する目的達成の為に、武装する効果があると考えられたということですね。

皆本 武装することで、志気が鼓舞されるであろうという考えが上層部にあつた様です。

○現在の我が国に

対する気持ち

岩田 皆さんは生死の境をさ迷って生き延びて今日迄来られました。現在の日本に対するお気持ちをお聞かせ下さい。

皆本 佐々淳行さんが今朝のTVで、若者が無気力になって、我々老人が今でも20才台の考えと気持ちで世の中に立向かわざるを得ない、こんな我が国の現状を嘆いて居られました。全く同感です。

久保 昨年東支那海、バシー海峡で洋上慰霊祭を行いました。多くの戦友が今尚海底深く沈んだま、です。現在も海の中至る所に水漬く屍が、又比島の山野のみならず、各地に草蒸す屍が多数遺されていることを、若い方々は是非忘れないで下さい。そして折に触れて靖国神社にお詣りして下さい。

浦本 私は基本的にはそう心配しなくても良いと思っています。目をつぶり度くなる様な姿の若者も見掛けますが、それなら我々が若い時に今の若者より特に偉かったのかというところで、もなく、閉りの雰囲気につられて自分の実力以上に振舞っていたと思います。現在は政治家を筆頭に、国中に緊張感が欠けているからで、テポドンが何発か飛んで来る様なことになれば、政治

家の考えも変り否応なしに日本をどうするかという、真剣な雰囲気醸成されて来ると思っています。何も心配することが無ければ、昔でも今の様になったかも知れないという気がします。我が国の置かれた国際的な立場、国情に変化が起これば、若者達も変わるのではないのでしょうか。

豊廣 個と公ということが言われていますが、現在は何でも個或は私に立脚した発想が主で嘆かわしい限りです。我々の若い頃は滅私奉公でした。現在ももともと公の事を考える世の風潮が生まれて欲しいと願っています。現在九十六才で病臥中の特攻戦死者のお母さんが居られます。楠木正行の母親の心境で息子を特攻に送り出された心の一隅には、最愛の息子を戦死させたことを嘆く気持ちも抱いて居られる筈です。むしろ持っていることが当然と言うべきでしょう。それなのに未だにその様な気持ちを外に出して居られません。

その様な母上のお気持ちを慮んばかりことも今や希薄化し、戦死者の墓などにも目も呉れない様になって来ています。ですから靖国神社は国家で護持し、全戦没者の追悼顕彰を続けて行く必要があります。そうでなければ英霊は浮かばれません。遺族の方々の思いもその通りです。次代の日本を背負われる

皆さん方は良く考えて下さい。そして明治維新から大東亜戦争に至る我が国の辿った途を、良く勉強して貰いたいと思います。

野崎 私は長いこと自民党機関紙自由新報（現在は自由民主）の編集に携わりました。自民党には立派な人が大勢います。企業・個人の献金も一切受けず、貧乏を通した人もいます。靖国神社を護って呉れるのは自民党以外にありません。けれども現状何かキッカケが無いと、自民党が一新されることは無いと思っています。何時その機が訪れるのか、楽しみに待っています。

○自衛隊に対する考え方

大館 私は現在海上自衛隊員です。歴史認識の貧弱な人々許りで、戦前と戦後は要するにハルノートと終戦の詔勅のみ知っていて、戦争のことを何も知らない連中がいます。自衛隊に対して、之だけは言っておきたいという事がありましたらお願いします。

皆本 卓越した指導者というものは、国家存亡の危機に際しては国民の反対を押し切っても、国民をリードする決意と実行力を有する人です。国民がしっかりしていないとその様なリーダーは生まれ来ません。J・F・ケネディの、キューバ危機に際しての断乎たる措置は之に当ります。現在の日本のジャー

ナリストや有識者と称せられる人達の多くは、特定階層のこのみしか考えていません。今の日本にはケネディの様な宰相が必要です。日本人もその様なリーダーを選ぶ賢明さを持つべきです。正に国民の資質の問題です。

尾内 自衛隊にどんな認識を抱いて居られますか。

皆本 先程の佐々さんですが、最近の神奈川県警の問題から、我々の若い頃は成田や浅間山荘事件があり不幸な時代ではあったが、強い相手がいたことで我々の規律が正され強くなったと言って居られました。参院の田名部議員は、今の日本は練習試合のみで本当の試合をやったことがない。その差は致命的で、それをやる決意が国会議員には無いと指摘されていますが、これは大事なことだと思えます。

豊廣 ある海自幹部から、旧海軍の人は直ぐシーマンシップであると、精神主義的なことを言い出すけれども、今日の我々は、コンピュータ制御のメカ対応で頭が一杯で、話の波長が合わないと言われたことがあります。旧海軍→海自の接点をどういう点に見出すべきか、良く考える必要があります。沖縄在住の先輩に連れられて、沖縄海自のP3-C基地を訪問したことがあります。その時接遇に出た基地幹

部から、同じような感触を受けました。後輩は先輩に礼を盡し、先輩は後輩の立場を理解してこそ、旧海軍と現海自がつながるのではないのでしょうか。時代の相違といえばそれまでで、同じ様な外見であり乍ら人種が違ってしまっ

### 海挺第十八戦隊特幹遺書

久保 三郎

(元海挺第十八戦隊第三中队)

たかなと、非常に淋しく感じられます。野崎 我々兵科3期予備学生の同期会として海軍三友会があります。年に5〜6回集っています。海自・航自出身者に呼び掛けて、会員をふやして今三千人近くになりました。今一番の励みになっています。

大戦末期の昭和19年秋、比島ルソン島向け勇躍征途についた特幹編成の海挺第十八戦隊第一中队は11月12日未明受け輸送船辰昭丸被雷海没、向田貞一

同少尉は戦後自衛隊吏に民間会社を経て平成4年7月生れ故郷の広島に於て病没。没後奥方が遺品整理中、大型封筒入りの書類を発見、「遺書らしい……」と同地在住の田村繁雄氏(57期当時陸軍海上挺進戦隊戦没者慰霊顕彰会副会長)が調査の結果右記第十八戦隊第一中队特幹の遺書であることが判明。48年目にしてようやく世に出たものである。

視するに忍びず決然立って身を挺し皇国防衛の魁たらんと馳せ参じた憂国純忠の青年志士達であった。とは云え第一期生は昭和19年4月10日、豊浜の船舶特別幹部候補生隊に入隊、基礎教育を受け、軍人生活僅か半才足らずの少年兵でしかなかった。にも拘らず、遺書に述べられた純一無難。国に殉ぜんとする悲壮な決意の程が胸をうち拝読する者として肅然襟を正さしむるものがある。遺書を認めて僅か三ヶ月、雄凶空しく全員濟州島沖に消えてしまった。

木村 時間になりましたので本日の会は之で終了致します。豊廣 私共も若い方々の意見を大いに聞きたいと思っています。田中 今日人数が多く、初めは先輩の方が一方的に話を進めましたが、後半になって若い方からも鋭い質問が出される様になり、成果が挙げたと思います。折角良い機会が得られたのでこの様な交流を深めて行きたいと思

遺書発見の経緯及び結末  
右中队は特幹候補生当時から区隊長として出征準備中、急に内地部隊に転属、中队から離れることとなった。

是等遺書類は同会の奉仕に依りご遺族の住所及びご意志を調査確認の上、夫々のご遺族の許に鄭重にお届けし、不明分については靖国神社に奉納ご保管願うこととした。

今も尚東支那海、海底深く眠り続ける特幹英霊の遺芳を無にするが如きは到底許さるべくもないと考えるのであるが……。

遺言  
幸や我  
男日本に  
生れたり  
何の言葉も  
散らさず本望  
宗吉健保

遺書  
生モ死モ我が務  
内ニ在リ  
身ヲ  
誠ニ以テ  
努メテ  
上ニ進メ

遺書  
大義の下に悠長に生るる暇は皆無  
書下り 人五十年 五十年成す  
所を 今思ふ 恥ぢ  
身は 片断も 老を 畏れ 波瀾に 遭  
ふ 浪浪 東海 の 岸 にも あり 志士 たる  
我 國 の 魁 たる 極 天 皇 基 礎 を 護  
らん  
最後は 小豆島 集い 特幹 隊  
の 奮闘 望み 海國 日本 中 正 護  
大 任 完 遂 を 祈り 止まず  
限りある うち 任務  
悠長に  
大義に 生き 時  
生 朝 進 出

遺書  
船舶魂の  
権化たらん  
船舶英特別幹部候補生  
八澤 普

(平成十二年一月三日)

忠孝  
一本  
久米秀明

遺書  
打ちてー  
也なむ  
船橋兵特別幹部候補生  
大隅彰

遺書  
不撓不屈  
宮崎治男

遺書  
求敵  
必滅  
吉留亨

醜御楮  
と我征  
かん  
島田二郎

遺書  
玉試  
殺去思  
船橋兵  
封筒裏

遺書  
朱の使朱の  
朱を祿使朱  
朱を祿使朱  
朱を祿使朱  
朱を祿使朱  
朱を祿使朱  
梅名孝

遺書  
一日生まよ  
一人心を  
南演の  
波を砕く  
船橋魂  
本多啓彌

遺書  
大君にすべてを  
獻りまつらん  
船橋特攻隊  
二野守次

七生報國  
荒閑吉光

遺書  
大死一番  
船橋兵特別幹部候補生  
林江雄

遺書  
次撃精神  
中原 俊

遺書  
七生報國  
荒閑吉光

出陣に際し  
言はんと欲すも處を迷ふん  
視心小心にまさる  
視心今日のおとつれ  
何とさくらむ  
久米秀明

遺書  
敢闘精神  
船橋兵特別幹部候補生  
小林幹治

遺書  
天皇陛下  
萬歳  
船橋兵特別幹部候補生  
小林幹治

遺書  
撃ちてー  
止まむ  
船橋兵特別幹部候補生  
小林幹治

遺書  
必中  
韓沈  
遠矢良春

遺書  
忠孝  
一致  
土居滋之

遺書  
朱英撃碎  
死し  
止まず  
高崎英雄

遺書  
大君の御楯と  
此の身は朽ち  
果の果まで  
速必定獲

遺言  
君が爲何か惜ま  
我が命  
散りて咲かせる  
若櫻花  
船場兵 特攻隊員 北野諭

「遺書遺詠に偲ぶ特攻隊員の心情」の読後感

先般発刊した小冊子を陸上自衛隊第1空挺団に数冊贈呈し、若い幹部に所感を求めた。紙面の都合もあるので、初めから三人位、一人800字程にと依頼しておいた。このように感作を与え得たことに、当事者として嬉しく思う。

我々は慰霊祭をやったり慰霊碑を建てたりするだけで、事足りたとしてではならぬ。後継ぐ国民に特攻戦死者の精神を確かと伝えることに、もっともっと努力しなければならぬ。それが最大の慰霊である。会員の皆さん、あの小冊子を十分に活用し、社会教育に役立てて頂きたい。

編集者 田中賢一

普通科群第2中隊 3等陸尉 三浦 滋

私は昨年の3月に防衛大学校を卒業し、幹部候補生学校を経て、予てからの希望が叶い第1空挺団に配属となった。精鋭無比の誉れ高いこの空挺団で勤務するからには、いざ有事という時に躊躇なく任務を遂行できるように、自分なりの死生観を確立しておく必要があると常々思っていたところ、この特攻隊員の遺書・遺詠を読ませていただいた。特攻任務に就いた彼らの多くは、年齢も階級も今の私とほとんど同じであり、同年代の若者として、また自衛官として深く感銘を受け、考えさせられた。

危険を顧みず、命を懸けて任務に邁進するのは軍人であれば当然である。

しかし必ず死ぬとわかっていて何の憂いもなく出撃することができるとは、あうか。彼らの遺書・遺詠からは生に対する執着は一切見られないが、故郷に残した家族への思いが痛いほど伝わってくる。愛する妻や幼子、独身の者であれば年老いた両親を気遣い、思い残すことはないくらいでもあったはずである。それらを振り切った国家への忠誠心と任務への使命感には本当に頭が下がる。また、彼らが死に直面してもあのよう

言葉からわかった。

「後に続くを信ず」を合言葉に彼らは特攻を敢行した。自分が散っても、それを受け継いだ戦友がきつとやり遂げられる、というのが直接的に彼らに意図したところであろう。しかし現在の我が国の平和と繁栄が、少なからず彼らの尊い犠牲の上に成り立っているということを考えれば、「後に続く者」とはこれからの日本の将来を担う我々のことではないだろうかと感じた。彼らほど平和を望んだ人達はいなかったはずである。彼らの意思を受け継ぎ、これからも日本の平和の為に日々精進し、部隊の精強化に務めていこうと思

普通科群第3中隊 小林3尉

旧軍を激しく憎悪する左寄りの評論家が特攻隊員の死はオウムをはじめとするカルト集団の殉死と何ら区別無いという不見識な意見を述べていた。確かに特別攻撃は米軍に恐怖を与えるだけの戦果に止まったにもかかわらず、多くの悲しみを生み出したのだから先の大戦における旧軍の負のイメージに拍車をかけているのは否めない。又、

このような非人道的作戦を考案した軍の首脳部を肯定する事もできない。しかし、死を強要する者される者、双方を動かしたものは愛国心からくる使命感であることを忘れてはならない。そこにマインドコントロールによって生まれた狂信的殉教者とは一線を画すものがあるのではないか。

「栄えある国に生まれしこの恩は桜の花と散りて返さむ」

特攻隊員の「辞世の句」を読んで感ずるのは彼らの死に対する潔さである。それは某国の秘密工作員のように死を軽んじてるわけでも、殉教者のように死に妙な満足感を見いだしているわけでもない。そこには悲しみはあっても恨みはない、ただ国家や父母への忠孝と武人、軍人としての決意が清々しく述べられているのである。

父母を思う気持ちの延長上にあるの

が愛国心である。近年、日本人に急速に失われつつあるこの感覚は人間として生まれながらに持つべき当然の感覚であることを思い出させてくれた。

私は近代国家日本を守る自衛隊の若手幹部として「特攻」という思想をそのまま見習おうとは思わない。部下を死なせることなく任務達成をするのがよい指揮官なのだから。

しかし、第一空挺団普通科群の隊員として特攻隊員たちの心は受け継いでいきたい。そしていつか危険な任務に直面した時、「靖国で会いましょう」のような潔い覚悟をできる自衛官とならなければならない。

最前線をになう最精鋭部隊の幹部となったのだから。

特科大隊第2中隊 3等陸尉 長船好敏

特攻、すなわち特別攻撃には回天、桜花など種類があるが共通していることは死が避けられないということである。私と同年代の若者たちによって特攻隊は編成されており、若いその命が日本のために捧げられた。必ず死ぬという任務をもらってもむしろそれを最大の喜びとし、誇りとして笑って出撃していったという。遺書、遺詠などを

読んでいても死に対する恐怖心などは残っていない。穏やかで、乱れること

なく落ち着いている。しっかりとした死生観というものを持っていたに違いないと私は思う。日頃から死を意識して行動し、自分の任務を十分に理解し、ただそれを遂行することだけを考えていたのだろうか。自分は一人ではない、周りには仲間がたくさんいる。「もしここで自分が死んだとしても必ずほかの仲間が後に続いてくれる」そういう

た気持ちがあったに違いない。いくら任務だとは言え、口にはできない恐怖があったと思うのだが、訓練を積むことにより不安を自信へと変えていきそれと同時に確固たる死生観を確立していったのだろう。

物質的に十分でなく、成功する確率が低い特攻に期待するほど日本は追い詰められていたが、二十歳こそこの若者が次々と出撃していったのはなぜだろう。なにが彼らにそこまでの勇気を与えたのだろうか。彼らには自分の命をかけても守るものがあつた。自分の母国、日本に対する愛国心はもちろ

ん両親、兄弟、恋人など身近な人に対する思いが彼らに勇気を与えたのではないかと私は思う。

自分の大切なものを守るために命をかけるということは口では簡単に言うことができるが、実行するとすると並大抵なことではない。今の私に彼らの

ようなことができるか確信は持てない。しかし、今からいざという時に對して準備することはできる。いかにいい準備ができるかが問題だと思う。そのためにこれから心身ともに鍛えて、国民の期待にこたえられるように頑張っていこうと思う。それらが我々のため

に命をかけてくれた若者たちの願いなのではないだろうか。

### 靖国神社のみたま祭

7月13日から16日まで靖国神社のみたま祭が行われた。懸ぼんぼりについては27ページに記載しておいたが、主体をなすのは二万五千個に及ぶ献灯である。それは大鳥居をくぐって間もない処から拝殿の手前まで、両側に続いている。内苑に該当する部分は戦友会や同期生会のものだが、外苑は個人名のものである。よく見ると大半が女性である。御遺族であろう。献灯した人の御心情を偲び涙を覚える。

日本の総理大臣は見たことがあるのか。古来まつりごとこそ政治の根本である。

忘れがたい人たち

回天⑥

小灘 利 春

池淵 信 夫

兵庫県。日本大学、兵科三期予備士官、回天搭乗員。

回天特攻轟隊伊36潜で昭和20年6月28日、マリアナ東方海面において敵の大型輸送艦を攻撃、戦死。  
海軍少佐。

故・池淵信夫少佐は昭和18年9月、志願して海軍兵科三期の予備学生となり、魚雷艇の艇長講習を経て人間魚雷搭乗員をさらに志願し、山口県の大津島基地に着任した。

昭和19年9月5日に操縦訓練が始まって翌日、最上級搭乗員の二人が殉職する大事故が発生した。徳山湾内の海底に回天が突入し、捜索、救助が荒天と暗夜のために遅れ、遂に酸素欠乏となって絶息した。艇内で二人が生存していたのは十二時間半であった。

このときの艇は試作品の第一号であり、前半分が空洞なので空気が大きく、完成品では操縦室の前が隔壁で仕切られるので非常に狭い空間になる。その中で搭乗員がぎりぎり何時間生存できるか、人体実験をしようという話

が研究会の席で出たとき、温厚な池淵少尉が即座に手を挙げて「私がやります」と名乗りでた。

海岸に据えられた回天の操縦席に独りで数時間もじっと座っていて、外からハンマーで叩く合図に内側からハンマーで応答して、生存を確認して貰う。池淵少尉は生命の危険を伴う気力体力の限界のテストを淡々と成し遂げて、同の尊敬を集めた。

硫黄島に敵が来襲した際、池淵中尉は神武隊伊58潜で出撃し作戦中止となって帰還、次いで沖繩の敵軍上陸を迎えて多々良隊の伊58潜で出撃したが、再度の中止命令で引き返した。

そのあと洋上を航行する艦船の攻撃に回天の使用方法が転換し、池淵中尉は轟隊伊号第36潜水艦の先任搭乗員として昭和20年6月4日大津島を出撃、6月28日サイパン島の東方海域を航行中の大型輸送船を発見して池淵艇一基が勇躍突進した。

目標は速力12ノット、方位角右90度、距離六、五〇〇米である。潜水艦が魚雷を発射するには距離が遠すぎるが、回天にとっては申し分のない態勢であった。20ノットで12分間走れば絶好の突入点に到達できる計算である。相手は砲多数を備えた大型の攻撃型

輸送艦「アンターレス」であった。至近距離に回天の潜望鏡を発見した敵艦は直ちに速力を一杯に上げ、回避運動の転舵を続けながら五吋砲、三吋砲と二十耗機銃で回天の襲撃をくい止めようと懸命に射撃した。

突入してきた池淵艇は艦尾すれすれの五ヤード後方を通過、反転し再び突撃してきて艦尾を僅か一〇ヤード外れて走り過ぎた。繰り返す回避運動が効を奏して敵輸送艦は辛うじて逃げきったが、乱射した砲弾が自艦に命中して炸裂し、士官と兵員合わせて十二名が負傷した。

池淵中尉は正式に結婚していた。光基地で訓練中に幼いころからの許嫁と挙式し、間もなく出撃を繰り返したの で、実質的には七日間だけの結婚生活であったという。妻帯者の特攻隊員とは我々には想像もつかなかったが、池淵中尉が新婚早々の最愛の妻をあとに特攻に出で立ったことは、自ら困難を救おうとの思いがそれほど強かったものと、一段と深い感銘を覚える。

残された妻は再婚を考えず、子供はなかったが姪夫婦が養子になって山緒ある士族の家名を継いだ。今も各地で催される慰霊行事に欠かさず参列を続けておられる。

出撃の日、若妻は光基地に近い山上から南の海へ遠ざかってゆく潜水艦を見送った。その情景を偲ぶ歌は

若人は國を思い出でゆけり  
海の彼方に白波のこして



この写真は40号久家少尉のときにも出した。池淵中尉は向って右から3人目

〔書評〕

田中賢一

上原光晴著

「回天」

その青春群像

誤った歴史認識が横行する中で、この書物は正鵠を失わず、肯綮にあたりている。

抑々歴史認識は先ず正しく史実を掴むことから始まる。初から余談になつて申訳ないが、愚昧なる大臣がいて、売春婦だった半島人の言い分を聞いて謝つたのがもとで、従軍慰安婦なる珍語が一人歩きするようになった。

それとこれとを対比するのは申訳ないことだが、本書の著者は史によく史実を掌握されている。昭和7年生まれというから軍歴はなく戦後の教育を受けた人なのに、これだけ調べ上げられたことに先ず敬意を表する。そしてその史実を見る目が史に正しい。史実を色眼鏡をかけてみてはならぬことは論をまたないが、その事象が現れた一断面だけを見て論断することは、赤穂浪士を吉良邸に討入り、平穩に暮らしている一老人を殺した暴徒であるときめつけるようなものである。この例は極端かも知れぬが、要はよって来るところまで史実の中に入れて眺めなければ

ならない。その点本書は開戦の経緯にまで言及している、至れり尽せりである。

史実には光と影がある。東京裁判史觀に洗脳されてしまった者には、影の部分だけに焦点を当てて書いた書物があるが、本書にはそのようなことは全くなく、影の部分にも程よく言及している。

書評と言いながら、どうも私個人の歴史論に走ってしまったが、もう一つだけ言わせてもらえば、著者もあとがきで述べておられるが、「昨日のできごとは昨日の目で見よ」という鉄則がある。そして、それを後世に伝えなければならぬ。著者は序文で言っている。遺書でもわかるように彼らは、親やきょうだいを、民族を、故郷を、守ろうとして、祖国の危急を救うべく回天戦に殉じた。十八歳から二十一、三歳の大正二桁生まれの、心やさしい若者たちであった。

その青春群像を記録することにより、人のため、国のために死んでいった至純のころさしを知って、彼らの死を無駄にしないように、また、彼らの特攻作戦にかりたてた時代背景を明らかにして、このような悲劇を二度とおこさぬようにと願って、回天戦に殉じた若者達の実像を、二十一世紀の未見の

友たちに伝えたい」と。

この種の書物は学問書ではないので、読者に訴える力がなくてはならぬ。所謂「達意の文章」でなければならぬ。その点でも本書は優れている。私は往時の若者はこれほどまでにお国の為民族の為を思っていたのだということ、今の世及び後の世に伝えることを念願し、機関紙「特攻」の編集に携わっているが、この書物を読んで百万の援軍を得た思いがする。

なお筆を執った序に、この書評の前に出しておいいた小灘さんの投稿文に出ている池淵中尉について、小灘文以外の本書の文面を次に掲げて、本書の筆致を紹介する。

彼と菊水隊で戦死した佐藤少尉の二人は、既婚者であった。池淵と新妻のユキ子はともに兵庫県出身。年少のころからの顔なじみで、親戚の強いすすめもあって結婚したが、きざみみの休暇をあわせても、せいぜい一週間ほどの新婚生活であった。池淵は当初、「若い身でありながら未亡人という名をつけられると思えば、可哀相でなりません。強制されないように願います」と、基地から両親に手紙で慎重な対処をもとめている。

結婚後、出撃まえの二日間、最後の

短い語らいのなかで、彼は不安を感じさせない口調でいった。

「おれは結婚なんかすると、万一の場合、君がかわいそうだと思つていたんだが、おれの気持ちはどうしたわけか、以前よりおちついてきた。君は偉大なんだなあ。こんなに安定した気持ちになるなんて。もし子供がきたら、しっかり頼むぜ。」

おれはむだには死なないから、成功を祈つていてくれ。艦長だつて状況をよく考えて、無理な発進なんかさせはしないさ。だから安心していいよ。獲物がなければ、また、帰ってくるんだから」

夜ふけまで、二人は隊でうたつていてる歌を斉唱した。

六月四日。光基地から少し離れた山上にある天神様の祠ほこらのそばに、ユキ子は立っていた。きのうも二人は、この天神様に詣でて、これが最後の睦むつになつても知らずに、ひとときをすごしたのだった。

伊三六潜が一隻、光港を出ていく。大型潜水艦が、とても小さく見えた。積んである回天も、人影も、はっきりしない。風はそよともなく、太陽だけが照りつけている。しずまった山上で、ユキ子は夫のフネをみおくつていた。

池淵は出撃まえ、父親につきの遺書



を書いている。

「信夫は唯今より征きます。長い間のご高恩に報ゆる最高の道を選びました。信夫は神州不滅を信ずればこそ、笑ってわが身を弾丸と化し得るのです。何時までも御健康たらんことを祈ります。母のこと、ユキ子さんのこと御願ひ致します」

六月二十四日、伊三六潜は魚雷戦で敵船一隻に二本を命中。かたむきながら敵船はサイパンにむけて逃走した。戦後、LST(戦車揚陸艇)とわかった。

二十八日、遠距離に船団を発見し、池淵艇が発進していった。目標は、攻撃型輸送艦アンタレスである。艦長は潜望鏡にかじりついて、戦果の確認に全神経を集中した。(以下略)

「回天」とその青春群像

四六判四一〇ページ

定価二、四〇〇円税別

発行所 柳翔雲社

電話 〇三三九四〇一一一〇

FAX 〇三三九四〇一一二〇

購入法 小売店にある筈だが、無いときは取りよせてもらう。

曾野綾子氏を迎えて

## 戦後五十五年の慰霊祭

陸軍海上挺進第三戦隊戦友会

会長 皆 本 義 博

陸軍海上挺進第三戦隊及び同基地隊で構成する戦友会は、4月7日(金)桜花爛漫と咲きはこる靖国神社で、遺族・戦友・家族20数名が参集し、沖繩戦終結55年の慰霊祭を行った。

我が戦友会を、永い間お見守り戴いている曾野綾子氏ならびに乃木神社高山亨宮司がともに、ご繁忙の中一緒に昇殿参拝され、それぞれ玉串を奉奠された。

苛烈な沖繩の洋上および島で散華されたたご英霊も、さぞ喜ばれたことと存ずる。

参拝に先立ち、靖国神社の湯澤貞宮司のご挨拶があった。参集所控室の棚に供えられている花嫁人形について、若くして困難に身を捧げた我が子への想いを、この人形に托しておられる母親の気持ちのべられ、参列者一同涙を禁じ得なかった。

曾野綾子氏は、特攻の人達は、戦場へ赴くとき、「花の都の靖国神社、春の梢で咲いて会おう」と誓い合って居られた。今日は、その桜が満開ですね、

かけがえない若い命をお国に捧げること程、尊いものはございませんと挨拶され、目がうるんで居られた。そして産経新聞と大阪新聞に「靖国神社」痛ましい青春に贈る花嫁人形を次のように寄稿された。

日本人は桜のことになると、奇妙なほど夢中になる、と思うこともあるけれど、私は今年は、毎年恒例になっていくイスラエル旅行が少し遅めに出発することになったので、思いがけず桜が九分咲きの日に、靖国神社にお参りすることができた。

沖繩の慶良間列島で闘った旧陸軍の方たちと、私は昔知り合った。昭和二十年、渡嘉敷の集団自決として有名ななった事件を調べている時、島民の方たちからだけでなく、軍側からも取材したのである。今年も亡くなった戦友への思いを胸に靖国神社に参拝されることになって、私にも声をかけてくださったのである。

参集所というところで参加者を待っている時、今まで全く気がつかなかつたものの説明を受けた。部屋の周囲の戸棚の上に、ガラスケースに入った花嫁人形がたくさん飾られているのである。戦死した息子に現実には許婚者がいたのか、それとも、いつの日か必ずこういう嫁が来たはずだ、という思いが

親にあったのか、初めは一体が奉納されたのだが、その後どんどん数が増えた。中には一人で三床の花嫁人形を持つて来た人もいた。三人の息子たちはすべて戦死したのだが、彼らが淋しくないように花嫁人形も三人分必要だったのであった。

前にも書いたことがあるのだが、私の知人で、時折靖国の近くを通りかかる度に、お参りに寄るといふ人がいる。闘いに明けくれた青春の日々に、多くの友人が命を落した。自分は生き残ってしまった。その後ろめたさがいっても彼を靖国神社に向かわせるのであった。「靖国神社に一人でふっと立ち寄り、昔の友達に近況を報告しに来る人は、戦争の残酷さと辛さを身にしみ知っているんですよ。だからそういう人こそ、心底、戦争を忌避してらるんですよ」とその人は言った。閣僚が靖国神社に参拝すると、戦争礼讃だという簡単な論理を、私も信じていない。ほんとうは逆なのである。

生きていたなら、ごく普通の結婚をさせて家庭というものを味わせてやりたかった、という親の思いは悲痛である。それは慎ましい、ありふれた、静かな願いだった。それさえも叶わなかった痛ましい青春に対して、私たちはどう叩いたらいいのだろう。花嫁人形は

鬼気迫るものさえ感じさせた。

婦りに、私は千鳥が淵の無名戦士の墓に立ち寄った。ここに祀られている名を知られていない死者たちを思うと、私はただ頭を垂れる他はない。私に与えられたすべての境遇は、それに比べると、どんなに厳しいものであろうと甘すぎた。だからどのような運命でも、すべて受容いたします、と心の中で誓うべきだろう、といつも思うのである。千鳥が淵もお花見の人で溢れていた。墓苑は五時まで開いていると書いてあるのに、五時五分前でも入口の柵は閉ざされていた。遠くからでも祈りは捧げることができるのだから、私は柵の手前で手を合わせた。  
(産経新聞及び大阪新聞の「自分の顔相手の顔」)

### 海上挺進戦隊

#### 慰霊碑第9回慰霊大祭

去る大戦の末期、悪化した戦局の挽回を期し、陸軍海上挺進戦隊が旧制中学在学中に志願した15〜19才の少年らを中心に陸軍船舶特別幹部候補生として編成された。後には全国から優秀な下士官が参加し、その訓練が広島県田島町の幸ノ浦海岸で行われた。その訓練基地に昭和42年に海上挺進

戦隊慰霊碑が建立され、4年に1回の慰霊大祭が開かれ、今年は第9回の大祭が平成11年10月19日と20日に実施され、全国から元隊員や遺族など約190人が参列されました。

今後は地元(広島)の会員を中心として慰霊碑を守ってゆきます。

陸軍海上挺進戦隊戦没者慰霊碑顕彰会

実行委員会

池田 恒茂

### 鹿屋航空基地

#### 特攻戦没者追悼式

飯野 伴 七

平成12年4月7日鹿屋市今坂の特攻隊慰霊塔碑の前で旧鹿屋航空基地出撃者特攻隊戦没者追悼式が、鹿屋市長主催の下に厳粛整々と執り行われた。

参列者はご遺族五八、家族一四二名の方が全国各地より参集され、市当局者戦友来賓市民の方々、五〇〇名余りの大勢の参列があった。

当日は折からの晴天に桜満開、緑の若葉に映えていた。私は特攻隊戦没者慰霊平和記念協会 最上理事長代理として参列の旨、地元の肥田先輩に紹介されて山下栄鹿屋市長に挨拶をした。

一〇三〇一同着席、国歌斉唱、国旗掲揚、海自鹿屋基地儀仗隊の弔銃発射の礼が行われ、折から南の空より、海自鹿屋基地のヘリ三隊九機、P3C対潜哨戒機二機の編隊が爆音を響かせて上空から追悼飛行が行われ、一同上空間近を通過する各機を見送った。

次いで司会者進行で山下市長の式辞が捧げられ、市議会議長、遺族代表、生存者代表、海自第1航空群司令の追悼のことが捧げられた。

山下市長の献花に続いて、ご遺族生存者代表、海自航空群司令、各議員、串良町長に次いで協会理事長代理として献花申上げた。

ご遺族、生存戦友の献花が続いた。ご遺族代表の挨拶があり、特に生存同期生による出撃隊員の遺書の朗読があり、五十五年前の純忠の魂の叫びを耳朶深くに震える思いで傾聴した。

締め括りとして生存戦友一同式壇前に進み整列して「同期の桜」を斉唱して行事を終った。

一一二五国旗降納、閉会のことばを以て追悼式を終った。

ご遺族は記念写真を撮りバスにて晝食懇親会場に向かわれた。私は翌八日二月末に協会の南九州特攻基地巡拝の際時間の都合で割愛した第一国分、第二国分両基地慰霊碑を参拝して帰宅し

た。両基地共五十五周年を期して碑側に桜の植樹が行われ花を開いて居た。地元関係の方々の慰霊献身変わらぬ心に打たれた。

### 単行本の頒布について

前号の会報で特別会費納入者に次代会報を差上げると申しましたが、特別会費という制度はややくしく誤解を招くおそれがあるので、それぞれ有料頒布することに変更しました。

○遺書遺詠に偲ぶ特攻隊員の心情

A5版 60ページ 六〇〇円送料別  
内容は43号に掲載したものと概ね同じですが、活字を大きく、読み易くしました。

○特攻隊員の日記

A5版 70ページ 七〇〇円送料別  
これも既に会報に出たもので、殉義隊若杉是俊、第64振武隊森高夫、回天多聞隊佐野元、第79振武隊佐藤新平、勤皇隊山本卓美の五柱の日記です。

両方とも身近かな人に読ませるのに都合よいように小冊子と致しました。特攻隊員の精神を世に知らせるのが、我が会員の使命であります。御協力下さい。

# 騎兵出身の特攻隊員③

田中賢一

前回までで幹候9期で航空に転機し特攻で戦死した者の紹介を終った。まだあったのかも知れない。現に特攻隊になって待機していたが終戦になったと、名乗り出た人もいるが、9期についてはこれをもって終了とする。

ところで、幹候4期に宇津木五郎という人がいた。埼玉県坂戸市の出身で現役兵として習志野の騎兵第15聯隊に入り、甲種幹部候補生となり、任官した。その後北支の搜索第32聯隊にいたが、16年5月落下傘部隊を志願し、白城子飛行学校練習部で、教育を受け、同年12月の動員で、挺進第1聯隊第4中隊の小隊長となった。同聯隊は陸軍落下傘部隊の頭号聯隊で、二回も南方に出動したが武運に恵まれず、敵地に降下する機会を得なかった。

19年12月、後に義烈空挺隊の名で戦史に足跡を残した特攻隊を編成するにあたり、宇津木中尉は小隊長としてこれに加わった。五人の小隊長のうち、16年に中隊が創設されたときからいたのは宇津木中尉だけだったので、奥山隊長の最も信頼する部下だった。義烈空挺隊はサイパンのB29基地を覆滅す

る為創設された部隊だったが、硫黄島中継ができなくなり、翌20年1月末にこの特攻作戦は取りやめとなった。

その後目標もないまま特攻隊として訓練を重ねること五ヶ月、その間の苦惱は宇津木中尉だけのことではないので、ここでは述べない。沖繩作戦が始まり義烈空挺隊にも出番が訪れた。読谷、嘉手納両飛行場を抑え込み、航空特攻を容易にする任務のもと、義烈空挺隊は5月24日夕刻熊本の本陣を発つた。宇津木中尉は自分の小隊長11名と共に二番機に搭乗した。操縦者は第3独立飛行隊の酒井義男少尉(陸士57期)と長谷川道明曹長(乗員養成所出身)であり、目標は読谷である。この機が着陸に成功したかどうかは、残念ながら分からない。

宇津木中尉が妻に書き残した遺書がある。文面といい字体といよいよこの人の性格を表している。遺言書として個條書になっており、第一條には「分家スルニ当リ生活諸物件(家土地)ハ兄ノ思召シニテ満足スルコト」となっており、何か家憲書のような感じがする。

妻喜代子さんはそのとき懐妊しており、やがて女兒を産むが産後死没してしまひ、赤子は喜代子さんの母親が育てる。義烈空挺隊には不時着して生き

残った者がいるが、その人達は宇津木中尉の遺児美穂さんが結婚したときお祝いを差し上げ、今も連絡がとれているという。

私も出身は騎兵で原隊は16聯隊、宇津木君とは時期が違うが同じ旅団にいたことになる。そんなことを挺進部隊に来てから知りよく語り合ったものだ。

宇津木中尉の遺詠  
いかならん事に会いてもたゆまぬは  
わがしきしまのやまとだまし



原所属の第1挺進団長中村大佐の前で奥山隊長が計画を説明しているところ。後に立っているのが宇津木中尉。

遺言書  
分家スルニ当リ生活諸物件(家土地)ハ兄ノ思召シニテ満足スルコト  
妻喜代子さん  
赤子は喜代子さんの母親が育てる  
義烈空挺隊には不時着して生き残った者がいるが、その人達は宇津木中尉の遺児美穂さんが結婚したときお祝いを差し上げ、今も連絡がとれているという。

# 知覽特攻基地慰靈祭

主催 知覽特攻慰靈顕彰会

平成12年5月3日

知覽特攻観音堂前



式典は初め仏式で行われ、読経に続いて一同順次に焼香し、仏式終了後、追悼・慰靈のことは奉読に続いて献詠があり、そのあと全員が献花した。最後に参列者全員で「加藤隼戦闘隊」「同期の桜」を合唱し閉会となった。



参列者 全員で一、一〇〇名、うち遺族は一六四名 その他は陸士、特操、少飛等の同窓者及び戦友会の会員等で、遺族以外は老兵である。会場の外には若者が多勢いたが。

本日の参拝者は六〇〇〇人位という。

## 献詠

解説

思えば、幾百万の尊い生命が、大東亜戦争の戦火の中に散って行った。祖国の安泰といや栄を念じつゝ散華した兵士を靖国の神と賛うるならば、それを生み、それを育て、我が子を祖国のために献じた母はまさに「護国の母」と云うべきだろう。多くの護国の母たちは、健気にも涙をかくし、ひたすら我が子の武運を祈りながら、遙か戦場に送り出したのである。

### 題護国母

島田 磐也

戦雲速万里征野 死生有命战场裡  
闕魂火燃祖国愛 武運備禱銃後楯  
雄渾開華大和魂 母子俱尽忠烈道  
母情秘愛児送駅 心血結合護皇国  
召され征く我が愛し児ぞ若さくら  
見送る母の胸に咲くかな

献詠者

詩吟朗詠

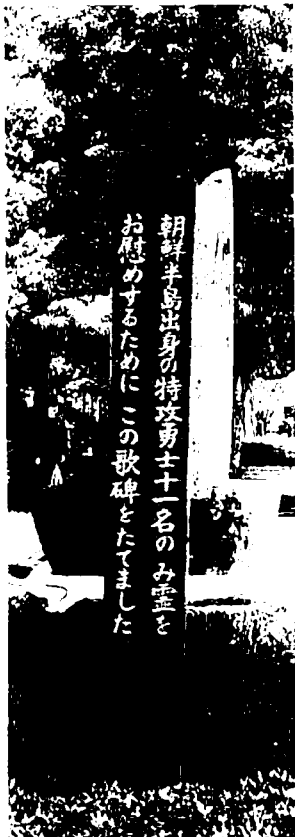
木村 錦城 会  
木村 錦香

母の像

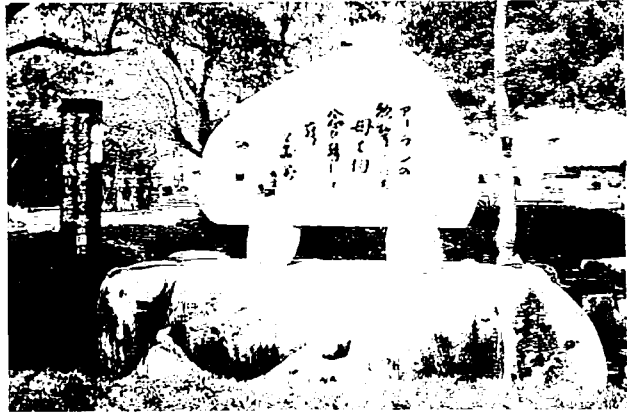


知覧特攻会館

昨年入館者573,000人



朝鮮半島出身の特攻勇士十一名のみを  
お慰めするためにこの歌碑をたてました



朝鮮出身の特攻隊員



知覧町から境内まで続く石灯笼その数927

# ネグロス島慰霊訪問記

理事長 最上貞雄

当財団では兼てより特攻関係の現地での慰霊行事を計画し、その手始めに今年2月南九州特攻基地並びに慰霊碑

等の巡拝旅行を行いました。宮崎より始めて、都城、串良、鹿屋、指宿、知覧、万世と巡拝し、年に一度の慰霊祭では拝観出来なかつたところも拝観出来又関係者より直接種々説明などを伺うことが出来大変有意義な巡拝旅行で皆さんより今度は最後に突入された現地で慰霊行事を行うよう要望されました。

それには組織的特攻攻撃が初めて発動されたフィリピンを第一に考えなければと思ひ、その下調べに行つて来ました。陸士56期航空でレイテ作戦にも参戦された岡林龍之氏が自から主催する会で毎年ネグロス島慰霊訪問旅行を実施しておられるので、今年はその訪問団に参加させてもらいました。

去る4月29日成田発7泊8日の旅でしたが、大変勉強させられました。ルソン島のマニラ市には戦時中も戦後も何回となく行きましたが、ネグロス島は今回が始めてでした。ネグロス島はレイテ作戦のため我航空部隊が展

開したところでバコロド市はその中心地でした。北からファブリカ、マナブラビヤ、タンサ、シライ、タリサイ、バコロド、その南にラカルコト等の飛行場群があり各地で慰霊祭を8回催してきました。

この会では、里親制度をもっており、今のところ日系人の三世、四世が中心ですが、小学生より中学、高校、大学生までの里子を各人何人かづつもって奨学金を支給しています。成田を出発の時、大きなダンボールで37箇その重量は30kgに及び荷物の多いのに驚きましたが、内容は里子に配る衣類、学用品等で現地に着いて始めてわかりまし



サラビアの慰霊祭で英文の祭文を読む里子の一人



ロザリオハイツ慰霊祭に集まった子供達日系三世四世が多い

た。従つて現地での慰霊祭にはその子供達や親の方々が各地でも多勢集まり大変盛大な有意義な慰霊祭が行われました。慰霊祭も日、比、米の戦没者の慰霊を心掛け、祭文も特攻平和観音經も全部英訳され、日本語に続いて英語で捧読されました。

### 日程の概要

4月29日 成田→マニラ

マニラ→バコロド(ネグロス島)

4月30日 午前バコロド市内観光

午後ロザリオハイツにて子供教室

慰霊碑にて慰霊祭

5月1日 午前 前バコロド市長表敬

訪問 同市役所表敬訪問

午後 バゴ市長表敬訪問  
オイスカ・バゴセントラ視察  
養蚕から絹糸製糸まで一貫作業  
渡辺オイスカ所長庭園にて野外パーティ

5月2日 サガイ市長表敬訪問  
ファブリカの慰霊碑にて慰霊祭(碑に大きな穴があげられていた。)  
マナブラでは教会の中で慰霊祭



ロザリオハイツ 慰霊塔の前で子供等に特攻の話をする



ファブリカの慰霊碑 裏側に大きな穴があげられた



カンラオン神社にて

サラビヤは旧飛行場の防空壕の残骸の所で慰霊祭  
 5月3日 バスにてカンラオンのオイスカ模範農場視察、広大な農地には見渡す限りの立派な水田が耕やかされてあり、日本と変わらぬササニシキが二作で出来、マニラの寿司屋に卸している。大きな矩形の貯水池があり、早魃にも心配は不要、中心部には立派な庭園があり来客用の30人収容出来る宿舎がある。  
 5月4日 ロザリオハイツにてこども教室  
 里親、里子の歓談が行われた。夕刻慰霊碑にお別れの礼拝が行われた。



モンテンルバの(17名死刑)慰霊塔

5月5日 国内線ボーイング707で一時間マニラへ、モンテンルバの刑務所参拝。17名の死刑の方々の冥福を祈る。「モンテンルバの夜は更けて」の作曲者56期伊藤正康氏を想い浮かべる。終ってマバラカットに向う。ピナツボ火山の大噴火で一丈近くも埋れ鳥居の頭だけが見えるがあとは一亩草も生え、立派な舗装道路が出来自動車も頻繁に往来している。祭壇をもうけて慰霊祭を行う。終って市役所に表敬訪問 且つて聞いていた特攻神社、日本庭園、日本館等の話は進んでいない。唯年末迄にはフィリップン空軍が使用しているクラ



マナブラの教会の中に設けられた祭壇

クフィールド基地内に平和観音像が日本より寄進され建立されるとのこと  
 で、市の観光局長が現地迄案内してくれた。  
 5月6日 午前マニラ市内観光、ショッピング等を行い、午後二時四〇分発の日航機で帰国の途についた。  
 今回の旅行で特に感じた点  
 1、慰霊祭の方式が大変良かった。  
 かつてフィリップンよりの60期留學生が「他の国に来てあちらこちらに慰霊碑を建てるのは止めてほしい。誰が後の面倒をみてくれるのか。病院でも建ててくれれば、フィリップンの人々も感謝し、日比親善の実がある。それこそが、慰霊につながる。」と言っていた。  
 このフィリップンで戦没された日比米の全英霊を吊うことが大事で今回の慰霊祭では先づ第一に日比両国の

国旗を掲揚し、フィリップンの国歌を斉唱し次に日本の国歌を斉唱し、祭文も特攻平和観音経も日本語の次に英文で奉読し多数のフィリップンの老若男女がお詣りをしてくれていた。これは他では見られぬ慰霊祭であった。  
 2、里親制度がこの会員にはかなり定着していた。毎年里子に衣類、学用品、菓子等を沢山持参し、学問を推めていた。里子の中から大臣にまでなった人も出たというのを聞いて驚いた。  
 又これらの里子の家族が慰霊碑の清浄維持に当たってくれていると聞かされた。  
 3、オイスカのすばらしい活動  
 全く民間ベースでフィリップンの人と一体になって先づ桑の植林、その桑の葉で蚕を育て、まゆをとり、製糸機械にて立派な絹糸を作り、遠くアメリカにまで輸出している。(バゴセンター)ヌバゴより車で2時間半程南東に行った東部ネグロスのカンラオンには広大な石コロだらけの荒地を開墾して見渡す限りの水田を作り、コシヒカリを栽培し、マニラの寿司屋は全部此処のコシヒカリを使用している。全くおいしいお米で日本のコシヒカリと全く変わらない



2 m以上の灰に現れて今は砂糖きびが茂っているこの地の下が神風発進の地 (関大尉)

米作を行って独立採算で立派な庭園も中央に造られ、米客のため30人程も収容出来る立派な宿舎まで建っている。又横300m縦200m程の大きな貯水池が造られ早魃にも水に困まらぬ由。研修生の宿舎もありフィリッピン青年が30人から合宿で研修していた。フィリッピンの青年をかまくま実践教育している。正に曰比友好の礎となるであろうと感嘆した。

マバラカットの観光局長が灰に埋ったところは砂糖キビに繩を渡し日比両国の国旗を掲げ祭壇を設け、先づフィリッピン国歌を斉唱したので大変感動を受け、マバラカットの町の子算20万

ペソで第一次工事として関大尉発進の地の灰を掘り起し神風記念公園を建設する起工式が6月21日に行われ10月25日までに一期工事を完了する。二次工事の予算は未だついていないが、日本から募金協力も必要ではないかと考えている。我々が行って現地の人々も感動させる慰靈祭を行ったのが直接の刺激になったと思われ、今回の慰靈訪問は大変有意義であった。

### 神風記念公園起工式行わる

6月30日付現地の日本語新聞記事によれば、マバラカットの神風記念公園の起工式は予定通り21日に行われた。同町関係者や観光省職員ら三〇名ほど出席し、マリノ・モラレス町長がくわ入れを行った。

第一期工事の費用20万ペソは全額同町が負担し、公園を開む生垣や鳥居風の門などを10月25日までに完成し、第二期工事でその中に記念碑等を建立するが、まだ予算のめどが立っていないので、日本からの援助も期待しているという。

戦争体験者が子や孫に映像で申し送るビデオ「君にめぐりあいたい」

英霊にこたえる会 戦没者英霊の慰霊、顕彰の国民運動を推進している英霊にこたえる会(昭和51年結成 会長堀江正夫50期)

は、大東亜戦争を身をもって体験した戦中派が、次代を担う子や孫に、わが国の歩んだ真実の近現代史を、ただしく申し送る語り部として、ドキュメント・カラービデオ「君にめぐりあいたい」(53分)を作製した。

ビデオは、明治維新後のわが国がたどった日清・日露の戦争を経て、大東亜戦争に至った経緯を、「何故発生し、250万の戦没者英霊は、何のために戦い、どのような思いで散華されていったのか」に焦点をあて構成したもので、月刊誌『正論』に掲載された記事を読んで、本ビデオを見た読者からも、絶賛の声が届いており、次のように若者の感想が多数寄せられている。

埼玉県 山田知母子 24歳 良い意味でショックを受け、ずうっと涙が止まりませんでした。……日本人としての「プライド」をこれぞまた、一つ取り戻せたと思います。

東京都 大村和美 33歳 私は、靖国

神社の参拝や、君が代の問題など、あまり深く考えたことはありませんが、このような思いで亡くなられていった方々への気持ちには、ずっと持ち続けなければならぬと思います。

東京都 吉澤 総 26歳 若くして戦争で亡くなった方たち、彼らがいながら今の自分があるんだということを胸に刻みこまれました。

○申し込み方法 このビデオは、営利を目的としない「非売品」で英霊にこたえる会に特別維持会費2千円(送料 400円・2口以上でも400円)を納めた方に、1口につき1巻を進呈します。郵便振替で直接左記に振り込むか、代行社を通じて申し込んで下さい。

口座番号 00150131184977  
口座名 英霊にこたえる会特別維持会費  
注文口数、金額、送料、合計金額、住所、氏名、電話番号関係、送り先(住所と異なる場合) 問い合わせ先

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-1-1 靖国神社内

英霊にこたえる会特別維持会費 FAX 03-326414610



語り伝えておき度い

## 大東亜戦争戦史の一場面

田中賢一

5月19日、英靈にこたえる会

群馬県本部で講話したことの全文

戦後半世紀以上も経て、大東亜戦争中の諸々の事象も既に完全に歴史の範疇に入ってしまった。歴史というものは、正確に史実を把握し、先入観を持つことなく史実を眺め、その中から何か教訓を見出し、後世に役立てることに意義があると思います。東京裁判史観とは、その言葉が示す通り色眼鏡をかけて史実を見る態度であるばかりか、史実と称しながら史実でないところが少くありません。史実とはその時の事象だけではありません。その事によって来る原因までも含めたものが史実であります。そしてそれを見るにあたっては、昨日のことは昨日の目で見なければなりません。

本日は歴史認識について何か話せという御要望でして、歴史認識という言葉から受ける語感には広範なものですが、私は歴史の極めて限られた一面だけを捉えて私見を申し上げたいと存じます。それは私の見聞した戦闘史の一面面でありませぬ。戦の体験談となる、あ、自慢話かと思われる方もおられますでしょうが、私には誇るべき経歴も

ないし、私自身のことを語ろうとは毛頭思ってもおりませぬ。唯私が見聞したことで、もう私以外に知る人がなくなってしまう、どうしても世に語り伝えておきたいと思うことを数件申し上げます。

緒戦の頃は第一挺進団司令部の部員でした。パレンバン空挺作戦に際し南方軍の命令に接し、我々は意外に思ったことがありました。それは「第一挺進団はパレンバン飛行場を占領しスマトラ及びジャワ作戦を容易ならしむると共に成し得れば敵の破壊に先立ち精油所を占領確保せよ」となっていることでした。我々は内地を出るときから目標は石油施設と思ひ込んでいました。石油入手の途が断られたから開戦に踏み切ったのです。戦争目的に照し大本営の考えもそうでした。大本営のはからいで徳永中尉以下十数名を鶴見の日本石油の工場に派遣して、精油工場の構造について研修させました。南方軍の参謀部第四課はスマトラ作戦もさることながら近く開始しようとするジャワ作戦の為、パレンバン飛行場使用が不可欠で、このような命令になったのであります。

如何にすべきか検討しているとき、鶴見で研修した徳永中尉以下が団司令部に出頭しました。その頃我々はスンゲーパータニーに在る英軍の兵舎にいたので、徳永らは自分らの中隊を是非精油所に降下させてくれと、決意を溢らせて申出ました。下から盛り上げる力に感動した挺進団長久米大佐は、この中隊を精油所に直接降下させる決心をし、飛行集団に具申して、南方軍の命令拘ることなく、最初から二目標を攻撃する命令が出されました。私としては今だに感動を覚える史実であります。

もう一つパレンバン作戦で忘れ難い思出は、掩護に任じた飛行第64戦隊長加藤中佐の言動でした。36機の輸送機及び27機の物料投下機より成る大編隊、空中掩護する戦闘隊は、飛行第59、64の両戦隊でした。作戦決行は2月14日でしたが、その前々日でしたか、カハンの飛行場で軽爆戦隊も加えて作戦会議が行われました。その席上第59戦隊長から発言がありました。それは「進航途中で敵と遭遇し、増槽(落下タンク)を棄てて空中戦闘を行ったときは、挺進団が要求している降下後30分の在空中掩護は不可能だ」ということでした。誰もごもつものことだと思ひました。そのときどういふ訳で遅刻したのか、加藤中佐が入ってきてその話を聞か、我が戦隊は任務とあらば言われた通り30分在空中します、と強い口調で申しま

した。基地に帰って来れなくなるのにどうしますかと、誰も尋ねる者もなくこの話はそれで終わってしまった。加藤さんは増槽をつけたまま空中戦闘をやる気だったのか、それとも燃料が無くて帰れなかったら、敵飛行場に着陸しようとして考えたのか、聞いてみないので分かりません。それから三ヶ月後戦死されました。

次は19年12月に行われたレイテ空挺作戦の時のことですが、当時ルソン島クラーク地区のアンフレス飛行場に進出していた第2挺進団に対し、レイテ島ブラウエンの三つの飛行場を奪取し、第35軍が脊梁山脈を越してブラウエンに進出する攻勢作戦に協力するという計画が、第4航空軍より示されました。

マニラに司令部をおく第14方面軍では、レイテ決戦の為第1師団、ついで第26師団をレイテに差し向けましたが、敵航空に海上輸送は手痛い打撃を受けていました。レイテ島東半分は敵に占領され、そこにはブラウエン地区のほか、レイテ湾沿いにタクロバンとドラグの二つの飛行場がありました。そこまでは地上部隊が進出できる見込みはありませんでしたので、空挺攻撃の目標から外されていきました。そのことを知った挺進第3第4聯隊の中隊長級指揮官の間から、湾岸の両飛行場も降下目標に入れてくれ、それを自分の中

隊にやらせてくれという意見が盛んに起きました。ドラグの方は敵飛行場を破壊した後、敵中を突破してブラウエンまで来る可能性があるように思いましたが、敵上陸軍の中樞であるタクロバンは、降下に成功しても最後は玉碎することは分かっていたいました。それでも自分にそれをやらせると言ったので

挺進団では4航軍に只申し、ドラグには縮小編成の一個中隊をタクロバンには志願者で編成した二個小隊を差し向けました。目標に到達する前に撃墜され、レイテ湾を浮遊していて敵に捕えられた者が四人いるほか、両隊とも全員戦死してしまい、活躍の状況は明らかではありません。私は初め第2挺進団司令部各員に内定していましたが、故あって他の職に転じこのときはフィリピンに行っておりません。多くの親しかった人達を失いましたので、戦後一冊の書物にまとめ、現地にも二回ばかり調査に向きました。中隊長達の心意気については、司令部各員だった弘中少佐(故人)から戦後聞いたことです。

最後は義烈空挺隊の奥山道郎隊長のことを申します。19年11月末、当時宮崎県唐瀬原に在った第1挺進団に対し、サイパン攻撃の為一個中隊差出の命令が教導航空軍から届きました。第3独立飛行隊の重爆に搭乗しサイパン島ア

スリート飛行場に強行着陸し、B-129の基地を覆滅するという計画でした。B-129の東京初空襲は11月24日で、強行着陸差出しの命令が出されたのは、その直後でした。

命令を受けた挺進団長河島慶吾大佐は、この任務を果す中隊長は挺進第1聯隊第4中隊長奥山大尉が最適であると思い、聯隊長山田秀男中佐呼びこのことをはかりました。聯隊長も全く同意見だったといえます。聯隊長は聯隊に帰って奥山を呼びました。そのときの景況を、立会した聯隊付の弓削忠少佐(故人)は戦後次のように語りました。

サイパンのアスリート飛行場に対しては、既に陸海軍の航空部隊が何回か攻撃したが、決定的な効果を収めるに至らないので、教導航空軍では、今度挺進部隊を強行着陸させ、大打撃を与える特攻作戦を計画している。というように意味のことを話し始めました。すると奥山は総べてを察したらしく、その指揮官を私にやらせて下さいと言ったそうです。戦後になってこれらのことを河島さんやら弓削さんから聞いて、流石は奥山だと私は思いました。奥山は私より一年後輩ですが、初期から落下傘部隊にいて、私もその人物はよく承知しておりました。

サイパン空挺作戦は、3独飛の練成が遅れ、そのうちに硫黄島中継ができ

なくなり、翌20年1月末に取りやめになつてしまいました。義烈空挺隊という名称は、サイパン攻撃の準備中にきまった名前ですが、一旦特攻隊に指定された後は、目標もないまま訓練を続けること四ヶ月、隊員達は義烈空挺隊をもじって「愚劣 食放題」と自嘲していました。4月1日沖繩本島に敵が

上陸するや、我が陸海軍の航空は特攻を主軸とする艦船攻撃を展開したのですが、それを容易にする為、5月24日義烈空挺隊は沖繩の読谷嘉手納向飛行場に殴り込みに向いました。当初の一三六名が一人も欠けることなく、この作戦に参加したことは、奥山の並々ならぬ統率力によるものと思います。

以上数件述べた史実は御要望の歴史認識という題名の答にはなりそうもありませんが、私としては後世に語り伝えておきたいという願望から申述べました。

現在のようになんだ日本の社会の據つて来る所は、東京裁判史観に毒害された戦後の学校教育にあると思います。今心ある識者の中で、懸命な努力が続けられている義務教育用教科書の改善は、祖国の命運に拘わる問題であります。昔の国定教科書には、死んでもラッパを口から放さなかつた喇叭手木口小平のことも載っていました。沈んだ潜水艇の中で綴った佐久間艇長の遺書も出ていました。小学唱歌には水師営の

会见や、旅順口閉塞隊の広瀬中佐も謳われていました。大東亜戦争にはこのような範例は無数にあります。従軍慰安婦や南京虐殺の虚構を書き立てる出版業者は見向きもせず、洗脳されてしまった文部省の役人やその上に立つ政治家達は、それを指導する能力も意欲もありません。昔の小学校の訓導は、あのような教材を使って児童を教育する能力と見識を備えていました。明治の先人が打ち立てた教育制度就中教員養成制度は立派なものだったと思えます。国旗と君が代を否定する教員とそれらに煽動された生徒達、まことに寒心に堪えないものがあります。学級崩壊ということがよく新聞に出ています。生徒が教師の言うことを聞かぬというが、教師が上司に従わずして、生徒に言うことを聞かせられる筈がありません。

連日の新聞記事を見ると、我が國の将来はどうなることかと心配に堪えません。教育勅語のなくなった今、我が國の先人の歩んできた姿を、後継ぐ人に正しく教える以外に國を救う道はないものと信じます。私達に残された時間は少ない。野球でいえば九回裏の攻撃のようなものです。お互いにやりましょう。

水艇の中で綴った佐久間艇長の遺書も出ていました。小学唱歌には水師営の



散るときが浮かぶ時なり

蓮の花

飛行第四戦隊回天制空隊長

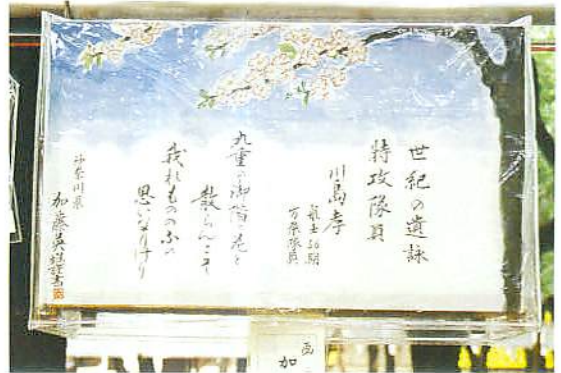
山本三男三郎少尉遺詠

20年4月18日大刀洗上空にて

B-29に体当り撃墜戦死

幹候9期22才

奉納者 金文男 (幹候9期)



飛行第53戦隊震天制空隊

山田健治伍長 B-29に体当り

20年2月19日東京上空にて

体当り撃墜

少飛13期21才

奉納者 海法秀一 (少飛13期)



九重の御階の花と

散らんこそ

我れもののふの思いなりけり

万葉隊川島孝中尉遺詠

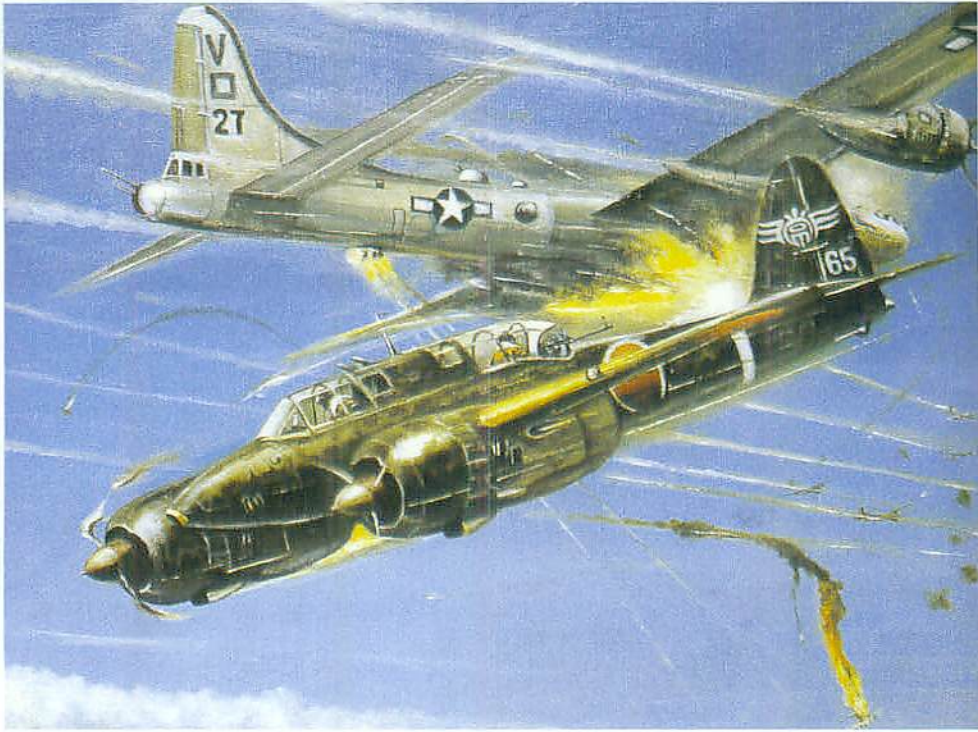
19年11月5日ルソン島にて

要務飛行中交戦戦死

陸士56期23才

奉納者 加藤英雄 (陸経一期)

# B-29との戦い



A 5判 164ページ

1,500円（送料別）で頒布します。お申込  
次第郵便払込用紙同封してお届けします。

本書発行の趣旨

毎年四回発行して会員に配布している会報「特攻」も平成12年5月発行分で43号となりますが、その間B-29に対する戦闘の記事は24回も掲載致しました。それらはマリアナのB-29基地に対する攻撃のよ  
うに、系統的に解説したものもありますが、季刊誌の利便さを活用し  
資料入手の都度記事を作製し、順序不同に掲載したものが大部分でし  
た。それらを系統的に配列し直し、更に成都のB-29基地に対する挺  
身攻撃のように全く欠如している分を増補し、単行本の形態のもの  
を作りました。

これを一、五〇〇円（送料別）で会員に頒布致しますので、座右に  
備えてお読み下さるとともに、近隣の方に回覧し特攻戦没者の遺勲を  
後世に伝えることに御尽力願います。

## 目次

B-29の正体	2
B-29の基地に対する航空攻撃	6
成都に対する航空攻撃	6
マリアナに対する航空攻撃	18
B-29の基地に対する空挺作戦	51
航空部隊の本土防空作戦	92
B-29に対する体当り戦闘	93
体当りが正式戦法となつてから	105
関東地区	105
中部地区	144
西部地区	149
B-29に体当り戦死者	162